

令和 8 年度診療科別目標発表会



日時：令和 8 年 9 月 3 0 日（水）16時から

場所：藤枝市立総合病院 2階講堂



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

目次

基本理念・基本方針

第3次経営計画の方向性と重点施策

1.血液内科

2.家庭医療センター

3.産婦人科

4.緩和ケア科

5.泌尿器科

6.呼吸器外科

7.歯科口腔外科

8.呼吸器内科

9.消化器内科

10.乳腺外科

11.皮膚科

12.耳鼻咽喉科

13.小児科

14.形成外科

15.外科

基本理念・基本方針

基本理念

～厳しき科学と温かき心～

質が高く、安全・安心な医療を提供し、恒常的な健全経営を目指す

基本方針

- 1 患者さんの立場を第一とし、安心・安全な医療を提供します
- 2 地域がん診療連携拠点病院として、手術・薬物・放射線療法及び緩和ケアなどの集学的治療を行うとともに、がん予防の推進、検診による早期発見に努めます
- 3 救命救急センターとしての役割を果たし、地域住民の命を守ります
- 4 急性期医療や災害医療に努めるとともに、地域医療支援病院として地域の医療機関と連携して地域医療の発展に貢献します
- 5 医療の質を追求し、持続的な健全経営を目指します

第3次中期経営計画の方向性と重点施策

(令和3年度～令和9年度)

方向性1 高度ながん医療の提供

- ① 低侵襲手術の充実
- ② 外来化学療法センターの拡充
- ③ がんゲノム医療連携病院の指定
- ④ がん検診の充実
- ⑤ 高度ながん医療提供体制の整備

方向性2 救命救急センターの機能強化・充実

- ① 救命救急診療体制の充実
- ② 救急領域を担う人材確保・育成

方向性3 大規模災害や感染症のまん延に備えた機能強化・充実

- ① 災害拠点病院としての施設整備、体制の強化
- ② 感染症のまん延に備えた機能強化・充実

方向性4 住み慣れた地域で安心して暮らせる医療提供体制の構築

- ① 回復期・在宅医療へスムーズに移行できる新たな体制の構築
- ② 緩和ケア病棟の整備
- ③ 在宅医療の推進
- ④ 地域医療連携の推進
- ⑤ 検査部門の国際標準化

方向性5 持続可能な経営基盤の強化

- ① より質の高い医療の提供
- ② 職員の経営意識の醸成
- ③ 医療施設・機器の計画的な整備・更新、デジタル化への対応
- ④ 積極的な情報の発信
- ⑤ 効率的・効果的な病棟の再編

方向性6 魅力的な職場環境の整備

- ① 医療従事者、臨床研修医等の若手医師の確保
- ② 働き方改革に対応した勤務環境の整備
- ③ 働きやすい職場環境の整備
- ④ 人材育成システムの構築

令和 8 年度診療科別目標発表



血液内科

県中部に進出しました

浜松医科大学 血液内科の関連施設



血液内科常勤医師



血液内科常勤医師

高橋 巧

2018年卒
好きなラーメン：
煮干しドロドロ
(セメント系)

安達 美和

2009年卒
好きなシュークリーム：
皮ザクザク系
(カスタードクリーム派)

平田 博也

2018年卒
好きな料理系YouTube：
笠原将弘の料理のほそ道
(『賛否両論』)



当科で対応可能な血液疾患

血液がん	良性疾患
- 急性骨髄性白血病 - 急性リンパ性 - 骨髄異形成症候群 - 慢性骨髄性白血病 - 悪性リンパ腫 慢性リンパ性白血病含む - 多発性骨髄腫 MGUS、ALアミロイドーシス含む	- 再生不良性貧血 - 溶血性貧血、各種 - 免疫性血小板減少症 ITP - 血栓性血小板減少性紫斑病 TTP - 血友病 - 凝固障害（血栓性、出血性） - その他の血球異常、凝固異常

同種造血幹細胞移植の適応と考えられる若年者の急性白血病については、静岡市内の施設へご紹介させていただくことがあります。

入院患者数

1日あたりの入院患者数

(人)

20

15

10

5

0

4月

5月

6月

7月



新入院のべ患者数

(人)

40

35

30

25

20

15

10

5

0

4月

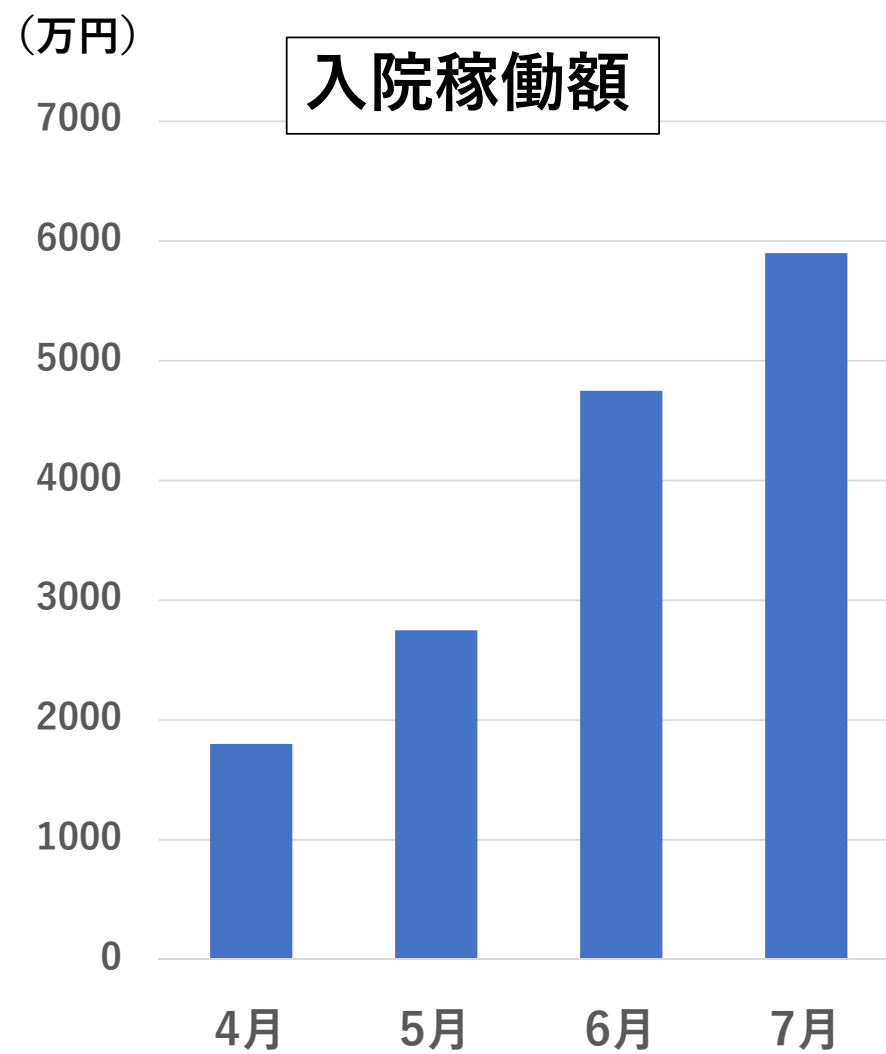
5月

6月

7月



入院稼働額



患者様にも病院にも優しい血液内科

- ✓ 医学的エビデンスに基づいた**最良の医療**を提案します。
- ✓ DPCを理解した計画的な化学療法を実施し、安定した**収益を確保**します。
- ✓ 病状が落ち着いた症例の治療で収益をあげることで、救命を要する場面では利益を度外視して**必要な医療資源を最大限投下**することができます。

令和8年度の当科の目標

1. 病床稼働率と収益の確保

15床(100%)以上の稼働となるよう入院化学療法と外来化学療法の症例を振り分けます。

2. クリーンルームの稼働

12月から無菌室（加算Ⅰ）が1床稼働予定です。
常に稼働できるよう調整するとともに、現在制限している急性白血病の受け入れを順次行います。

3. 安全な医療の提供

この5か月間、看護部・薬剤部・検査＆輸血部門の協力を得て全力疾走してきました。
引き続き初心を忘れずに、丁寧に診療の仕組みを整えます。

令和9年度の当科の目標

自家移植の準備

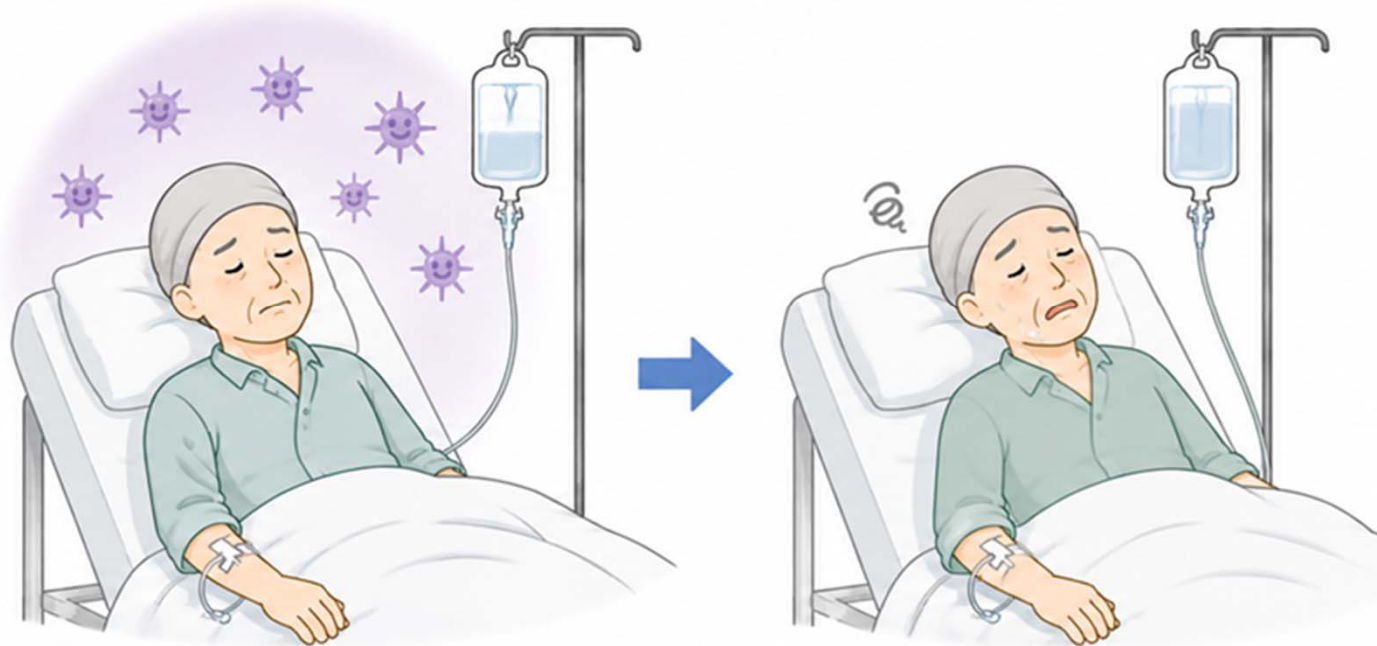
自家移植（自家造血幹細胞移植併用大量化学療法）

大量抗癌剤のみ

白血球が回復せず
命に関わる

適応

- ✓ 65歳以下の悪性リンパ腫の再発
- ✓ 65歳以下の多発性骨髄腫

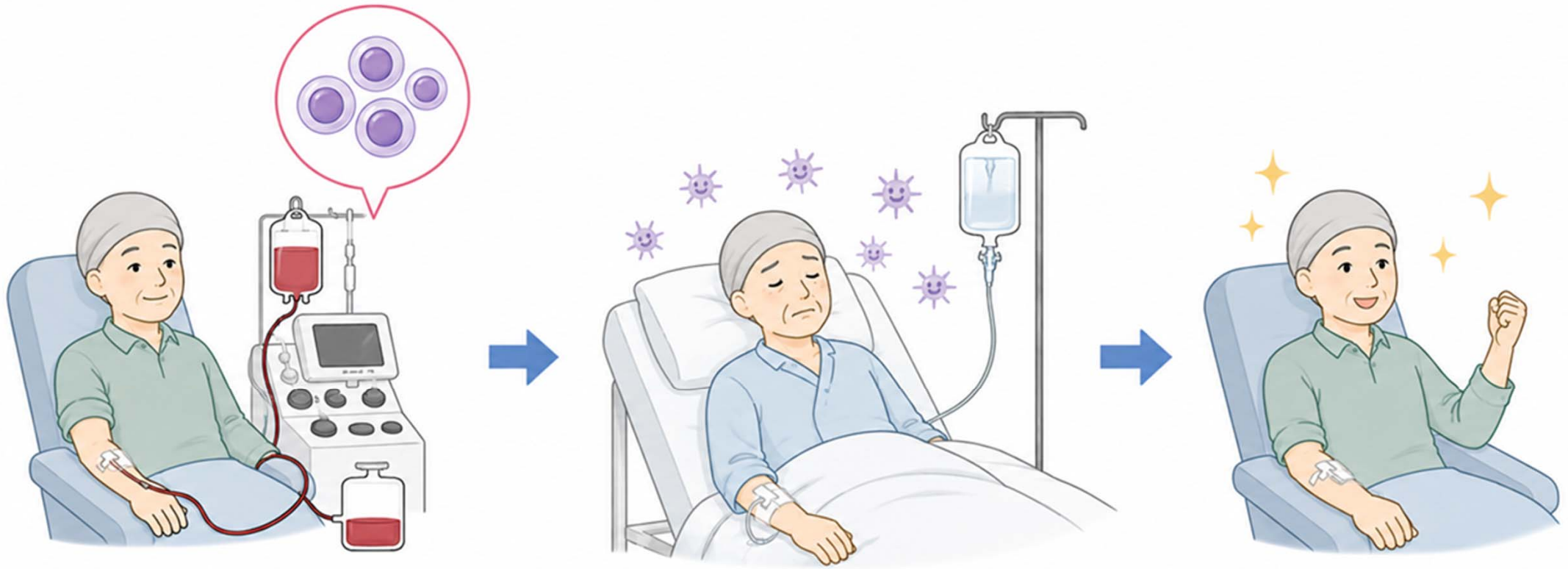


自家移植（自家造血幹細胞移植併用大量化学療法）

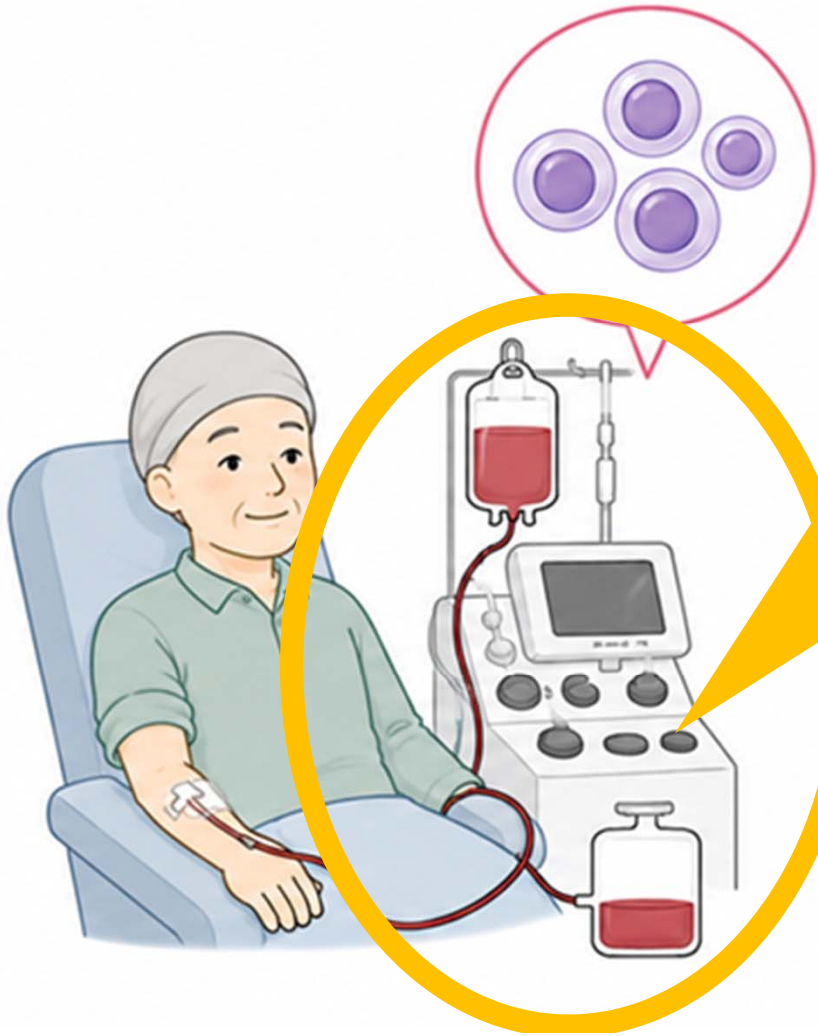
自己の造血幹細胞を
採取して凍結保存

大量抗癌剤投与後に
幹細胞を体に戻す

14日程で
白血球が回復



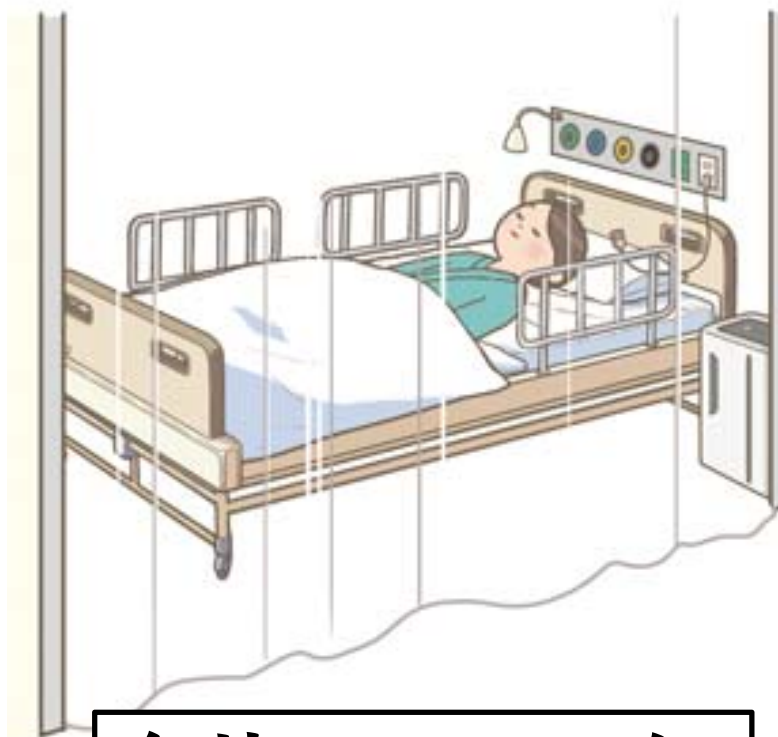
自家移植（自家造血幹細胞移植併用大量化学療法）



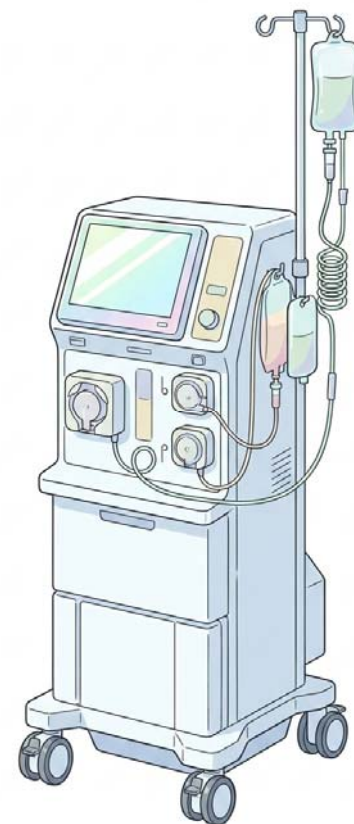
この機械を購入しないと
自家移植ができない



自家移植ができるように準備をしています



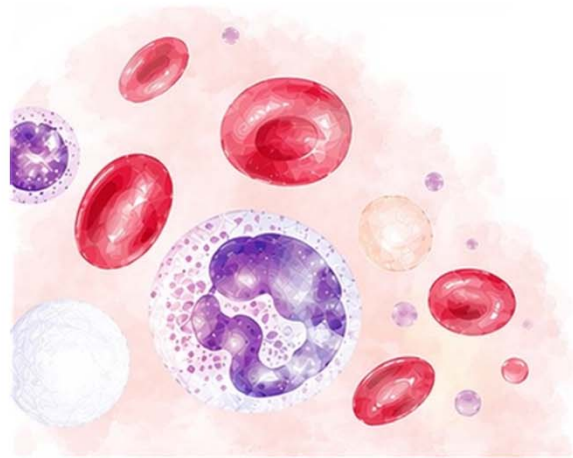
クリーンルーム



Gemini Notebook

血球成分分離機

藤枝市立総合病院 3A病棟血液内科 インスタグラムはじめました

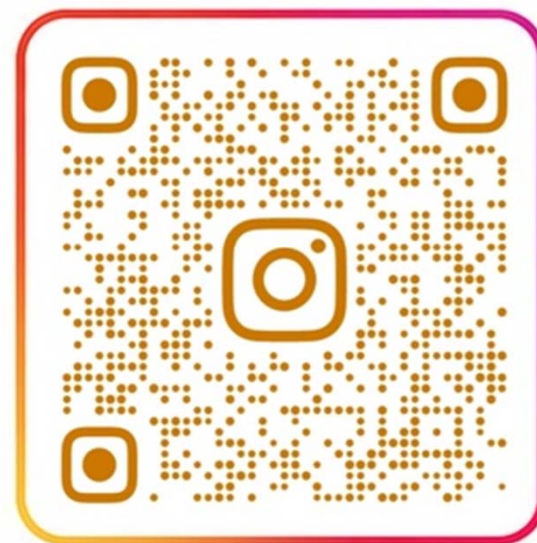


クラウドファンディングでの資金獲得を目指しています。
ぜひご協力をお願いいたします。

＼フォローはこちらから／



Instagram



@FUJIEDA_3A_BLOOD

🔍 インスタグラムで検索！



@fujieda_3a_blood

令和 8 年度診療科別目標発表



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

家庭医療センター

メンバー



診療体制

	月	火	水	木	金
午前 外来	吉田 加陽	松永 山森	松永	松永 尾崎	松永 久保田
午後 外来 訪問	吉田 加陽 松永	松永 山森	賀川 井上 松永	－ 臨時対応	松永 賀川

- － 外来は1-2診
- － 定期訪問は午後
- － 往診は24時間対応

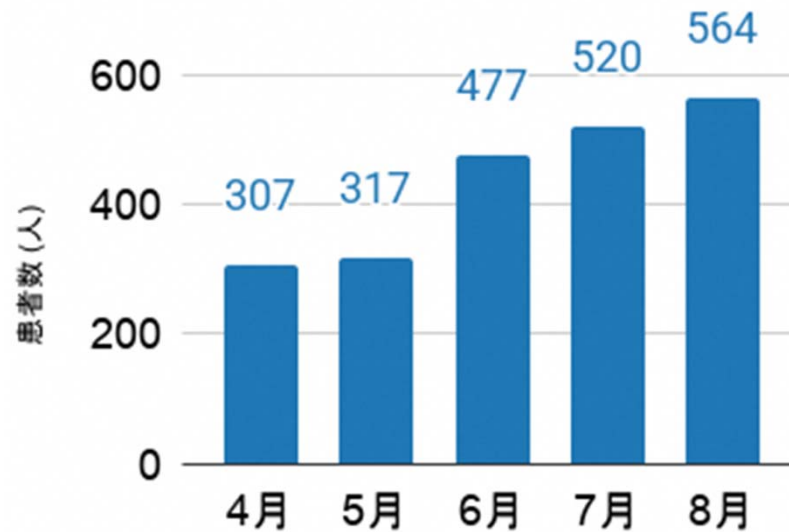
「病院のいち部門」
かつ「診療所」

開院後 診療実績

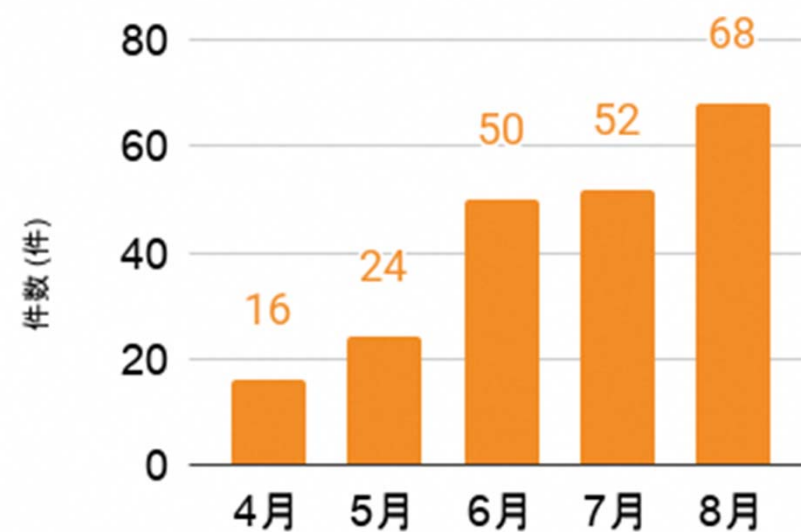


藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

外来患者数 (4月～8月)



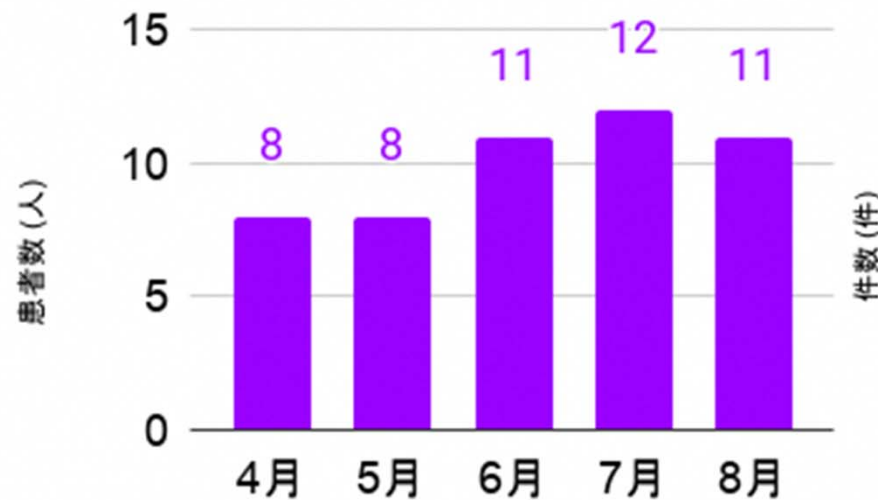
訪問診療+往診 (4月～8月)



あらゆる患者を断らずに受け入れ
→増加傾向

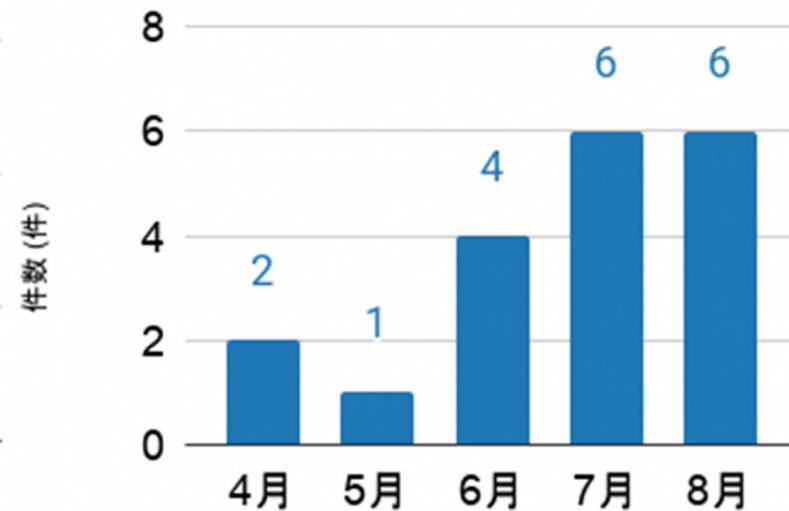
開院後 診療実績

新規訪問患者数 (4月～8月)



新規訪問患者 50名
平均 10名/月

看取り数 (4月～8月)



在宅看取り
約20名

結果: 早期の在宅療養支援診療所(在支診)、療養実績加算

特徴、強み

「病院のいち部門」かつ「診療所」である
という二面性

○ 総合診療/家庭医療の研修歴とマインド

→ 患者を選び好みしない。断らずに多様な患者を受け入れ。

幅広い初期診療&継続診療。場に応じた役割の変化。

○ 複数医師での外来診療/在宅医療

→ 時間外や臨時の対応をしやすい。当日緊急での訪問導入等も

○ 専攻医や初期研修医に主体的な診療機会を提供

→ 専攻医や初期研修医から高い満足度

第3次中期経営計画の方向性と重点施策

(令和3年度～令和9年度)

方向性1 高度ながん医療の提供

- ① 低侵襲手術の充実
- ② 外来化学療法センターの拡充
- ③ がんゲノム医療連携病院の指定
- ④ がん検診の充実
- ⑤ 高度ながん医療提供体制の整備

方向性2 救命救急センターの機能強化・充実

- ① 救命救急診療体制の充実
- ② 救急領域を担う人材確保・育成

方向性3 大規模災害や感染症のまん延に備えた機能強化・充実

- ① 災害拠点病院としての施設整備、体制の強化
- ② 感染症のまん延に備えた機能強化・充実

方向性4 住み慣れた地域で安心して暮らせる医療提供体制の構築

- ① 回復期・在宅医療へスムーズに移行できる新たな体制の構築
- ② 緩和ケア病棟の整備
- ③ 在宅医療の推進
- ④ 地域医療連携の推進
- ⑤ 検査部門の国際標準化

方向性5 持続可能な経営基盤の強化

- ① より質の高い医療の提供
- ② 職員の経営意識の醸成
- ③ 医療施設・機器の計画的な整備・更新、
デジタル化への対応
- ④ 積極的な情報の発信

方向性6 魅力的な職場環境の整備

- ① 医療従事者、臨床研修医等の若手医師の確保
- ② 働き方改革に対応した勤務環境の整備
- ③ 働きやすい職場環境の整備
- ④ 人材育成システムの構築

令和9年度に目指す姿（昨年同様）

家庭医療センター



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

令和9年度



方向性4:「住み慣れた地域で安心して暮らせる医療体制」への貢献

- 強固な地域連携と在宅医療の推進

病院/診療所/訪問看護/訪問介護/行政/保健との連携、24時間体制の在宅医療

- 断らないプライマリ・ケアと教育への貢献

グループプラクティスの確立、医学生/初期研修医教育・専攻医教育を通じた質向上

- 地域活動による予防医療やACP（人生会議）の推進

健康講座、性教育講座、学校医/産業医、イベント救護

令和 8 年度の目標

家庭医療センター

No.	項目	目標
1	断らない訪問診療	・ 患者/家族/医療者が希望する在宅医療や看取りの実現 ・ 早期退院や出口戦略への寄与
2	断らない外来と受け入れ拡大	・ 予防接種/乳幼児健診等の拡大 ・ 発熱患者等の積極的な受け入れ ・ 「プライマリ・ケアの砦」
3	初期研修医教育	・ 初期研修医に必要な外来教育/地域医療教育の提供 ・ どの科でも必要な基盤コンピテンシーの涵養
4	地域活動の継続	・ 健康講座、性教育講座、学校医/産業医、当番医 ・ 予防医療やACPの推進
5	他科連携・多職種連携	・ 緩和ケア病棟との協働強化 ・ あらゆる診療科との連携強化 ・ 訪問看護との継続的な連携

約束：医師会・多職種や行政と閾値低く連携して
引き続き困難事例や困難状況にも積極的に取り組みます

決 意

家庭医療センター in 藤枝 1.0

全体最適のために
「断らないプライマリ・ケア」を
継続します

令和8年度診療科別目標発表



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

産婦人科

医師の紹介



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

産婦人科

No.	氏名	役職等
1	金森 隆志	科部長 日本産婦人科学会専門医・指導医 母体保護法指定医
2	松木 翔太郎	医長 日本産婦人科学会専門医・指導医 日本産婦人科内視鏡学会腹腔鏡 技術認定医 日本内視鏡外科学会技術認定医(産婦人科) ロボット支援手術認定医 母体保護法指定医
3	竹内 文子	医員 日本産婦人科学会専門医 母体保護法指定医
4	北本 愛依	医員 日本産婦人科学会専門医
5	鈴木 勝英	医員 日本産婦人科学会専門医
6	雀部 綾乃	医員

診療実績等



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

産婦人科

	2022	2023	2024	2025	2026 (8月まで)
総分娩数	3 2 0	3 0 1	2 6 9	2 8 7	1 5 2
帝王切開	8 4	1 0 4	9 1	8 1	4 8
総手術件数	2 5 9	3 0 6	3 7 8	3 6 5	2 5 7
良性開腹手術	3 3	3 3	2 2	2 7	1 5
悪性腫瘍手術	1 1	1 2	2 4	3 5	3 3
腹腔鏡手術	4 3	7 1	9 6	7 8	6 1
腹腔鏡悪性手術	-	-	-	-	2
ロボット手術	-	1 2	3 4	4 8	2 3
平均月新入院患者数	4 8. 6	5 1. 1	5 8. 4	5 8. 6	6 0. 2

婦人科悪性腫瘍治療件数

	2023	2024	2025
子宮頸癌	1	1 6	1 2
子宮体癌	1 3	1 5	1 7
卵巣癌	1 4	2 3	1 7
その他			1

診療実績



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

産婦人科

ここ数年での新たな試み

ロボット支援下仙骨脛固定術の導入

腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術の導入

8月より開始

短期目標・令和8～9年度の目標

産婦人科

No.	項目	目標
1	産科	無痛分娩の導入 NIPTの導入
2	婦人科良性	現状維持
3	婦人科悪性	子宮体癌ロボット支援下手術の導入

- 分娩数の減少、分娩取扱施設の減少
- 母体の高齢化、様々な疾患の合併妊娠、不妊治療による妊娠
→ハイリスク妊婦の増加
- 当院は中部地区唯一のNICUとIVR科のある病院です

決 意

安全な医療を心がけます

令和 8 年度診療科別目標発表



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

緩和ケア科

医師の紹介



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

緩和ケア科



No.	氏名	役職等
1	吉野 吾朗	嘱託
2	津久井 賢	緩和ケアセンター所長、緩和ケア科科部長
3	星川 真由美	医長（兼 診療部外科医長）

診療実績等



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

緩和ケア科

診療の柱

- ・緩和ケア外来
- ・緩和ケアチーム
- ・緩和ケア病棟

主な診療実績	R5年	R6年	R7年
緩和ケアチーム依頼件数	114人／年	187人／年	217人／年

* 令和8年度 診療報酬改定（令和8年6月1日から施行）

一般病棟入院中患者への緩和ケアチーム介入対象疾患
悪性腫瘍、AIDS、末期心不全 + 末期呼吸不全、および末期腎不全 が追加

令和8年度の依頼件数：（8/31現在）112件 （年間268件相当）

第3次中期経営計画の方向性と重点施策

(令和3年度～令和9年度)

方向性1 高度ながん医療の提供

- ① 低侵襲手術の充実
- ② 外来化学療法センターの拡充
- ③ がんゲノム医療連携病院の指定
- ④ がん検診の充実
- ⑤ 高度ながん医療提供体制の整備

方向性2 救命救急センターの機能強化・充実

- ① 救命救急診療体制の充実
- ② 救急領域を担う人材確保・育成

方向性3 大規模災害や感染症のまん延に備えた機能強化・充実

- ① 災害拠点病院としての施設整備、体制の強化
- ② 感染症のまん延に備えた機能強化・充実

方向性4 住み慣れた地域で安心して暮らせる医療提供体制の構築

- ① 回復期・在宅医療へスムーズに移行できる新たな体制の構築
- ② 緩和ケア病棟の整備
- ③ 在宅医療の推進
- ④ 地域医療連携の推進
- ⑤ 検査部門の国際標準化

方向性5 持続可能な経営基盤の強化

- ① より質の高い医療の提供
- ② 職員の経営意識の醸成
- ③ 医療施設・機器の計画的な整備・更新、デジタル化への対応
- ④ 積極的な情報の発信
- ⑤ 効率的・効果的な病棟の再編

方向性6 魅力的な職場環境の整備

- ① 医療従事者、臨床研修医等の若手医師の確保
- ② 働き方改革に対応した勤務環境の整備
- ③ 働きやすい職場環境の整備
- ④ 人材育成システムの構築



緩和ケア科

当院緩和ケア病棟の特徴

- ・ 県中部唯一の緩和ケア病棟
 - ・ 患者さんや家族の抱える様々な苦痛を和らげ、その人らしい生き方を支える全人的ケアの場
 - ・ 静かで穏やかな時間が流れる空間を提供
- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 本館 8 階（南向き）・ 全室個室（有料 6、無料 6）・ 病室入り口のネーム表示なし・ 全室エアコン完備・ 談話室、キッチンスペース・ 季節のイベント | <ul style="list-style-type: none">・ 主治医は継続・ 面会も付添いも制限なし・ ペットも面会可能・ 飲酒も可能・ 心電図モニターなし・ 臨終後に湯灌を提供(希望時)・ アニマルセラピー |
|---|---|
- ・ 多職種チームによる手厚い支援



緩和ケア科

令和7年度利用患者数・内訳など

利用患者数	149人	転帰	
内訳			
消化器内科	71人	死亡退院	123人
呼吸器内科	27人	療養施設入所	11人
外科	17人	自宅退院	4人
泌尿器科	10人	転院	10人
乳腺外科	8人	その他	8人
産婦人科	5人		
呼吸器外科	3人		
耳鼻咽喉科	3人		
脳神経外科	3人	平均在院日数	15.7日
救急科	1人		
整形外科	1人		

* 緩和ケア病棟対象疾患（令和8年6月1日から施行）
 悪性腫瘍、AIDS + 末期腎不全 が追加

令和8年度利用患者数（8月末現在）90人（年間216人相当）

令和8～9年度の短期目標

緩和ケア科



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

No.	目標	方法
1	緩和ケア病棟の健全な運営	病床利用率の向上、他院からの受け入れ
		適切な退院調整
2	ケアの質の向上	院内・院外研修会の充実
3	教育、人材の育成	緩和ケア研修会・ELNECなどの開催
4	在宅医療の推進	訪問診療機関との連携 シームレスな緩和ケアの提供
5	学会活動	積極的な学会発表・参加
6	後継者の確保	指導・育成

中期目標・令和9年度を目指す姿

緩和ケア科



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

令和9年度



緩和ケア病棟の整備

- ・ この地域での緩和ケア病棟の役割の獲得
（他の有料老人ホーム、在宅ホスピスなどとの棲み分け）
- ・ 機動性、専門性、柔軟性、快適性
- ・ 地域の拠点となる教育

決 意

質の高い医療・ケアが、すべての
患者、家族に提供できるよう、
不断の努力を続けます

令和8年度診療科別目標発表



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

泌尿器科

医師の紹介



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

泌尿器科

No.	氏名	役職等	卒業年
1	伊藤 寿樹	科部長	2001年
2	児玉 堯	医長	2018年
3	熊谷 里美	医員	2020年
4	宇佐美 舜也	医員	2021年
5	久松 優作	医員	2023年

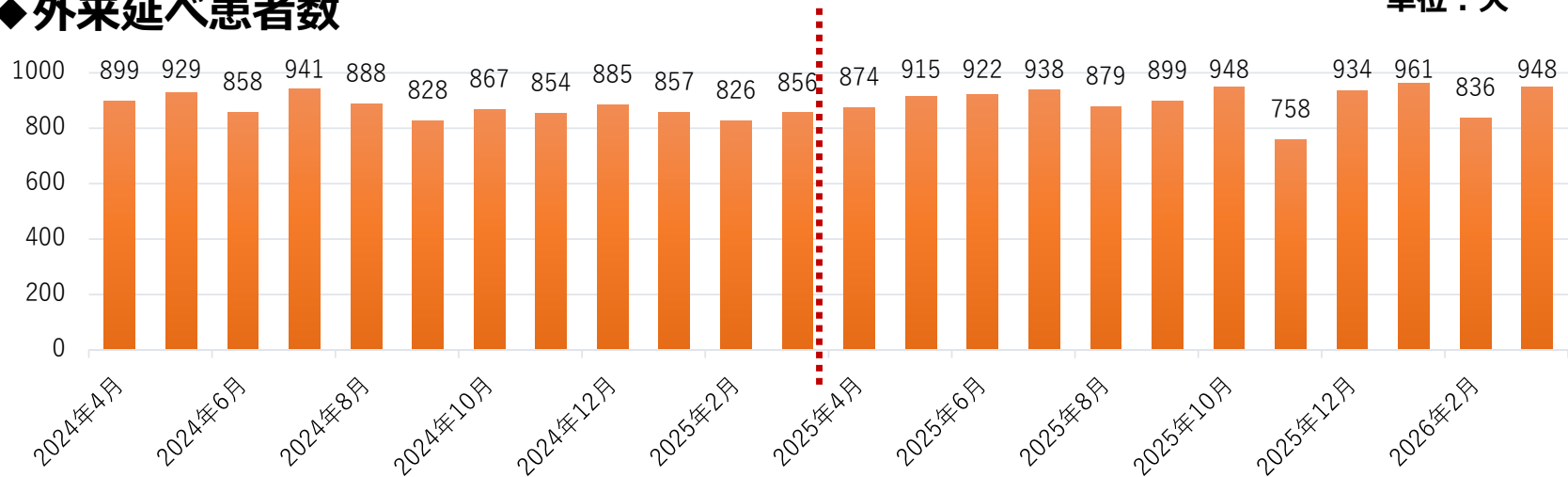
診療実績等



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

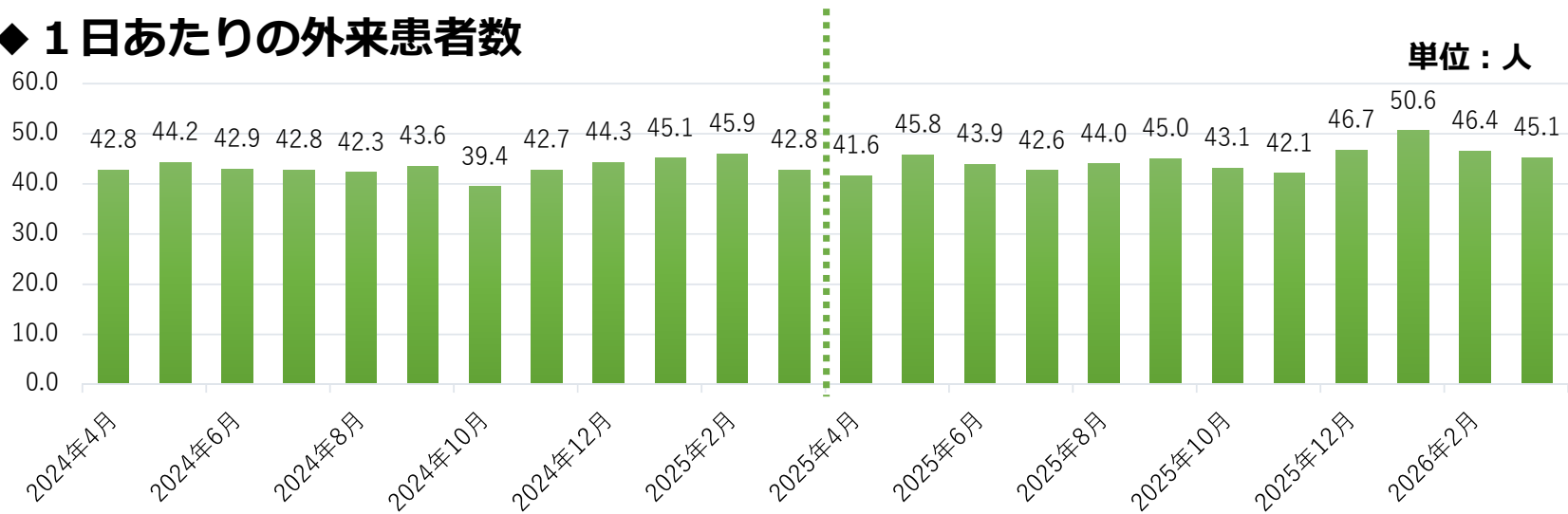
◆外来延べ患者数

単位：人



◆1日あたりの外来患者数

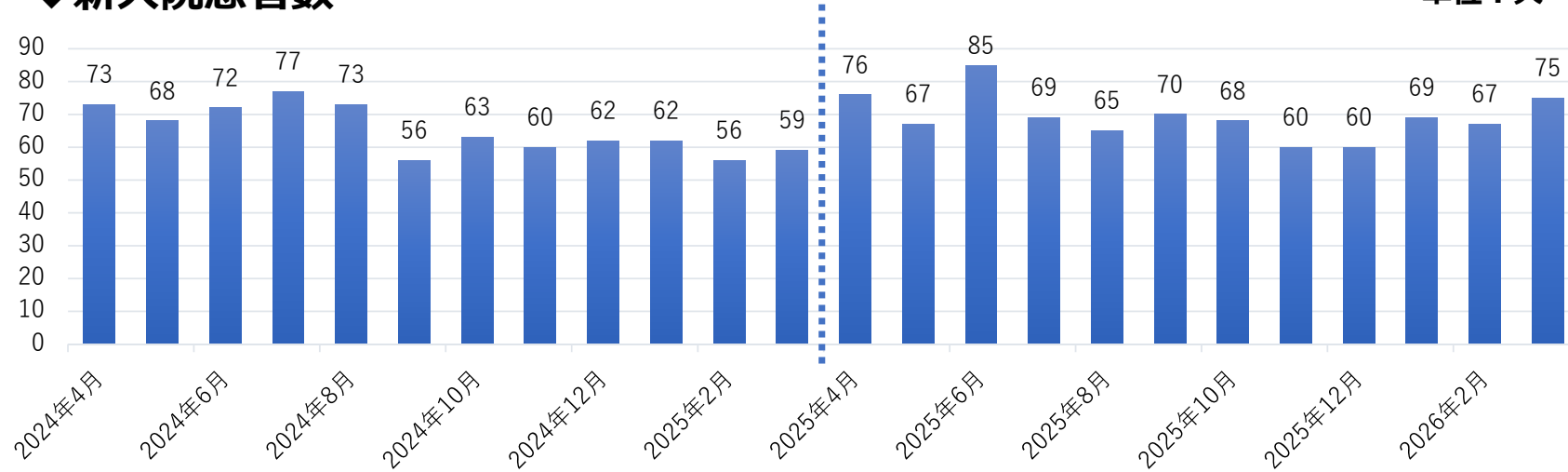
単位：人



診療実績等

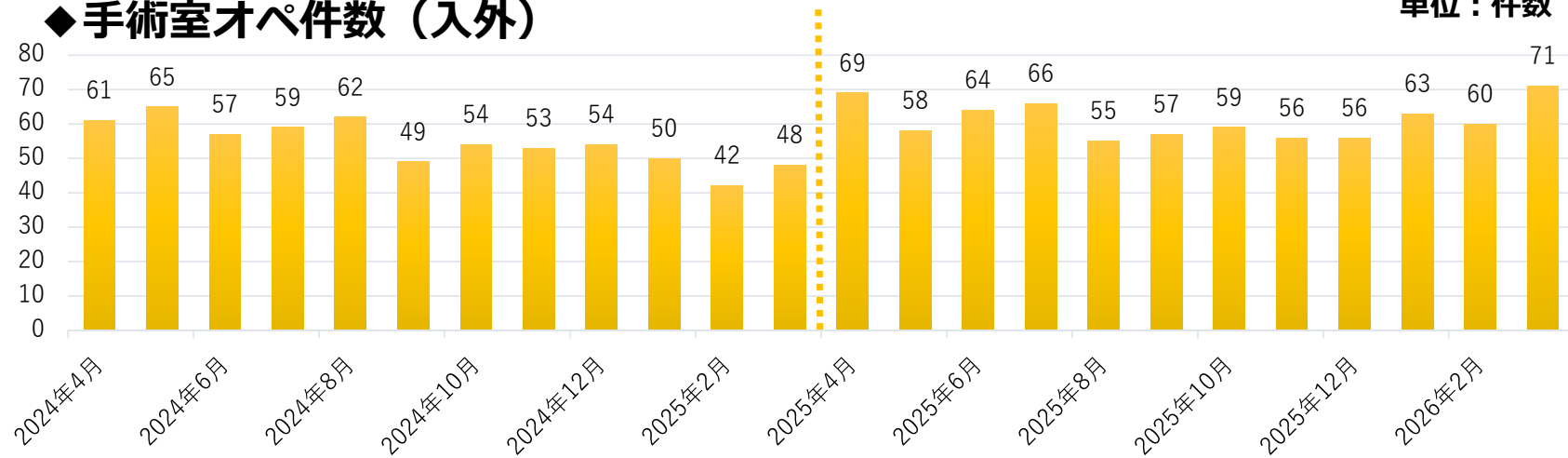
◆新入院患者数

単位：人

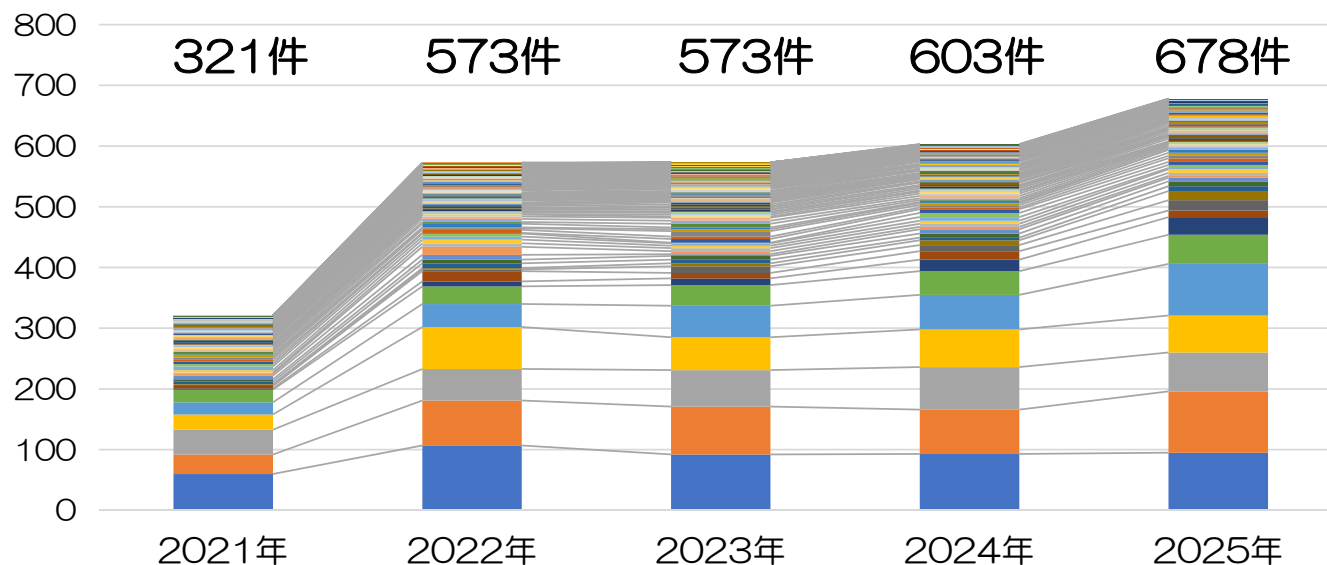


◆手術室オペ件数（入外）

単位：件数

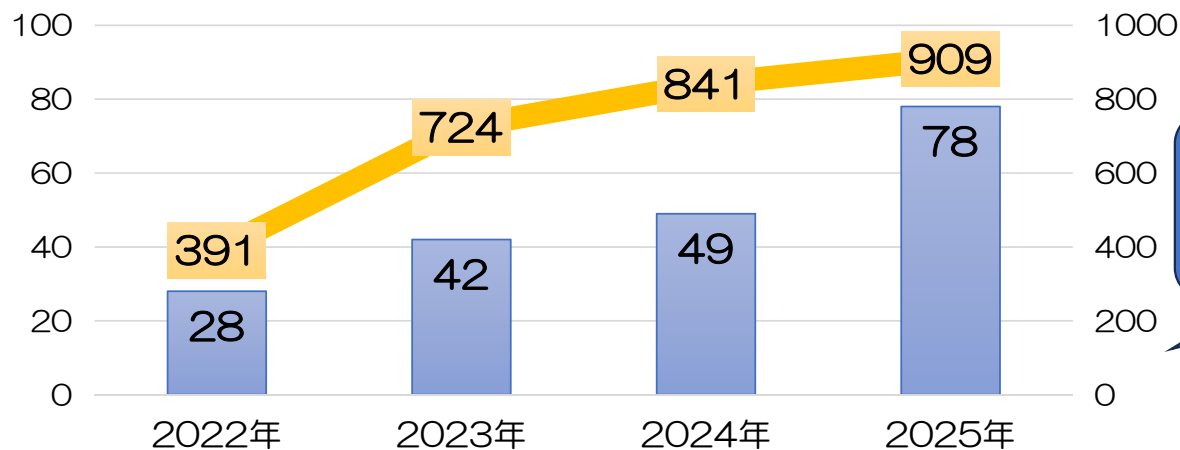


紹介患者数



藤枝市内・市外から多くの患者さんをご紹介いただいています

■ ロボット・ラパロ手術
■ 全手術件数



盤石な指導体制により、安心・安全な手術を実践しています

中期目標・令和9年度に目指す姿

令和9年度



総合力をレベルアップし、自己完結型の診療を目指す

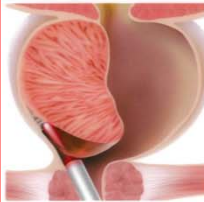
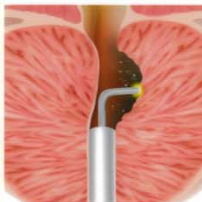
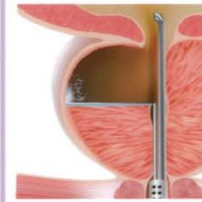
- 高度ながん医療の提供・・・3本の柱である手術・放射線・薬物療法を高いクオリティーで実施する（特に個別化医療の強化）
- 技術革命の波に取り残されない・・・低侵襲手術・新しい術式の導入
- がん診療拠点病院・急性期病院としての役割・・・強固な病診連携

短期目標・令和8年度の目標

No.	項目	目標
1	がん治療の強化	● 標準治療＋個別化治療により、密度の高い集学的ながん治療を可能とする。そのために、遺伝子パネル検査の推進、¹⁷⁷Lu核医学治療の準備を押し進める。
2	低侵襲治療の普及	● ロボット手術を安全に行い、安定した成績を積み上げる。 ● 他の低侵襲手術（腹腔鏡、レーザー手術）を拡充させる。
3	診療の質の向上	● 情報共有と振り返りを徹底して個々の戦力を高め合い、質の高い診療が均一に提供できるようにする。

今年度の泌尿器科の取り組み

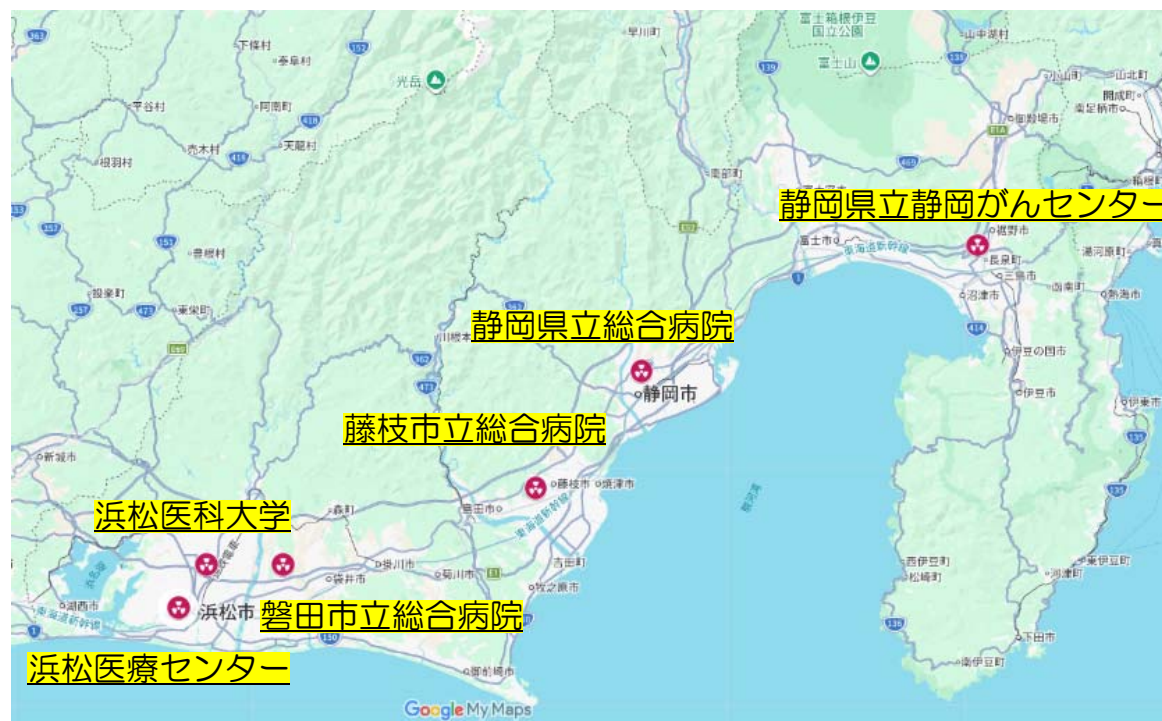
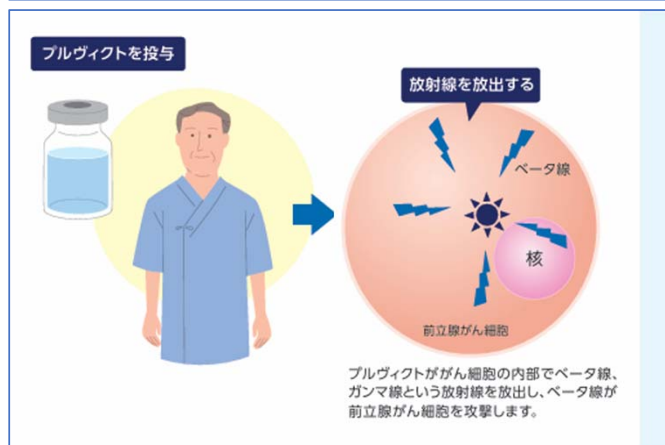
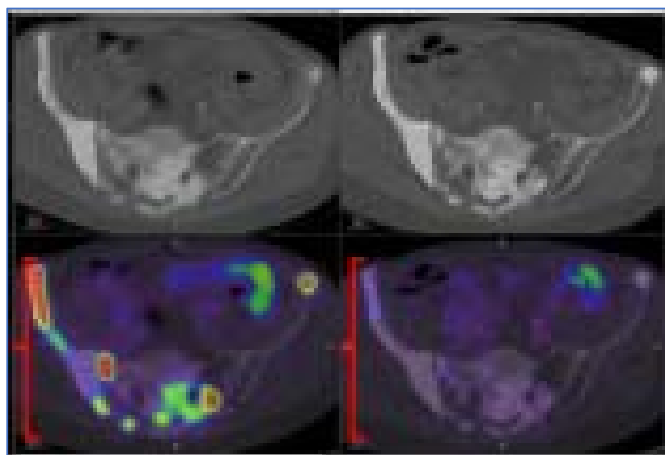
前立腺肥大症の手術の拡充・・・どのような患者さんでも対応可能に

術式	TURP (経尿道的前立腺切除術)	HoLEP (ホルミウムレーザー 前立腺核出術)	PVP (レーザー光選択的 前立腺蒸散術)	PUL* (経尿道的 前立腺吊り上げ術)	WAVE* (経尿道的水蒸気治療)	アクアブレーション* (Aquablation)
特徴						
術式解説	先端の切除ループに通じた高周波電流で前立腺腺腫を少しずつ切除する。	レーザーファイバーを前立腺の内腺と外腺の境目にあて、先端から出るホルミウムレーザーで、内腺(組織)をくり抜く。	レーザーファイバーを内腺に直接接触させ、瞬間的に高熱を与えることで、組織を蒸散させる。	前立腺の側葉に小型のインプラントを埋め込み圧縮することにより、尿道を広げる。前立腺組織の切除や加熱が不要である。	高温の水蒸気を噴霧し、組織内部の温度を70℃まで上昇させることで、狙った前立腺組織のみを壊死させる。	イメージガイド技術とロボット技術を組み合わせ、コンピュータに制御されたジェット水流高速の水噴射(ウォータージェット)により前立腺組織を切除する。
前立腺体積	前立腺体積によらず適応	前立腺体積によらず適応	30mL以上	30~80mL (推奨)	30~80mL (推奨)	50mL以上
手術時間	やや長め	長め	やや長め	短め	短め	短め
日帰り手術	×	×	×	可能	可能	×
抗凝固薬の内服	×	×	×	可能	可能	×
入院期間の目安	5~10日間	4~6日間	4~7日間	0~2日間	0~2日間	1~2日間

当院で実施可能なもの

今年度の泌尿器科の取り組み

前立腺癌の新たな治療＝ルテチウム (^{177}Lu) 核医学治療



放射線防護のため厳しい施設要件が必要となり、静岡県内で導入予定は当院含めて6施設。現在、ワーキンググループを立ち上げて、鋭意準備中！

前立腺癌の個別化、多様化する治療が当院でも対応可能となる！

前立腺癌：あらゆるフェーズで質の高い個別化治療が当院で可能に！

転移なし

根治治療

ロボット支援手術(RARP)

根治的放射線治療(IMRT)



転移あり

核医学治療

Radium223

^{177}Lu -PSMA

ホルモン療法

Abiraterone

Darolutamide

Enzalutamide

Apalutamide

Olaparib

Talazoparib



抗癌剤

Docetaxel

Cabazitaxel

放射線治療

転移巣制御(MDT)

症状コントロール

全身MRI (DWIBS)

骨シンチ(BONE SCAN)

PSMA-PET/CT (他院依頼)

画像診断の精度向上

FoundationOne CDx

FoundationOne Liquid CDx

BRCA Analysis

遺伝子変異の確認

緩和ケアチーム

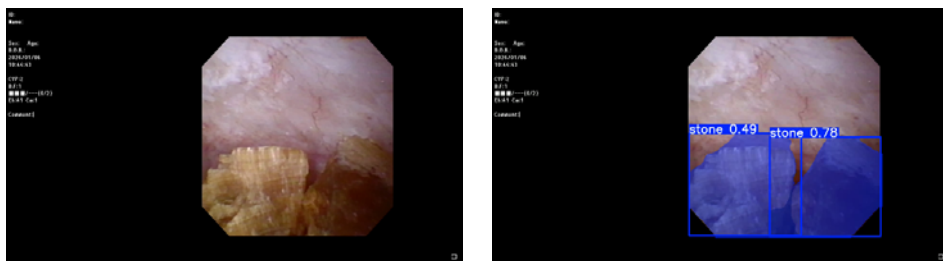
がん相談室

退院支援・MSW

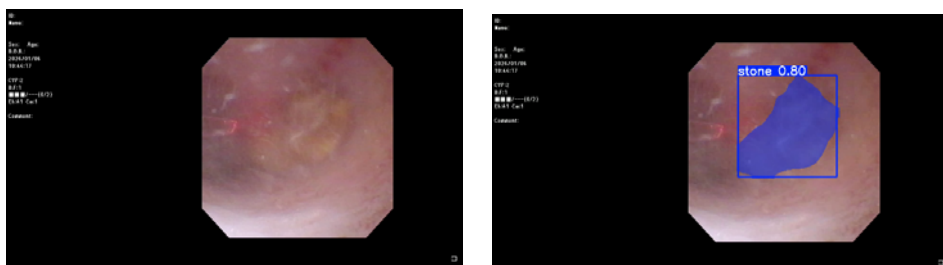
多職種支援

今年度の泌尿器科の取り組み

結石の検出

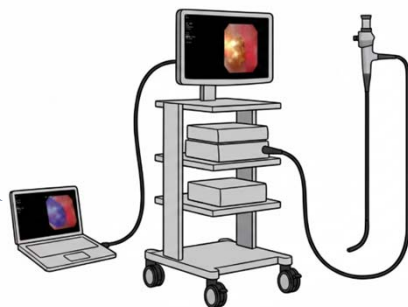


視野良好例



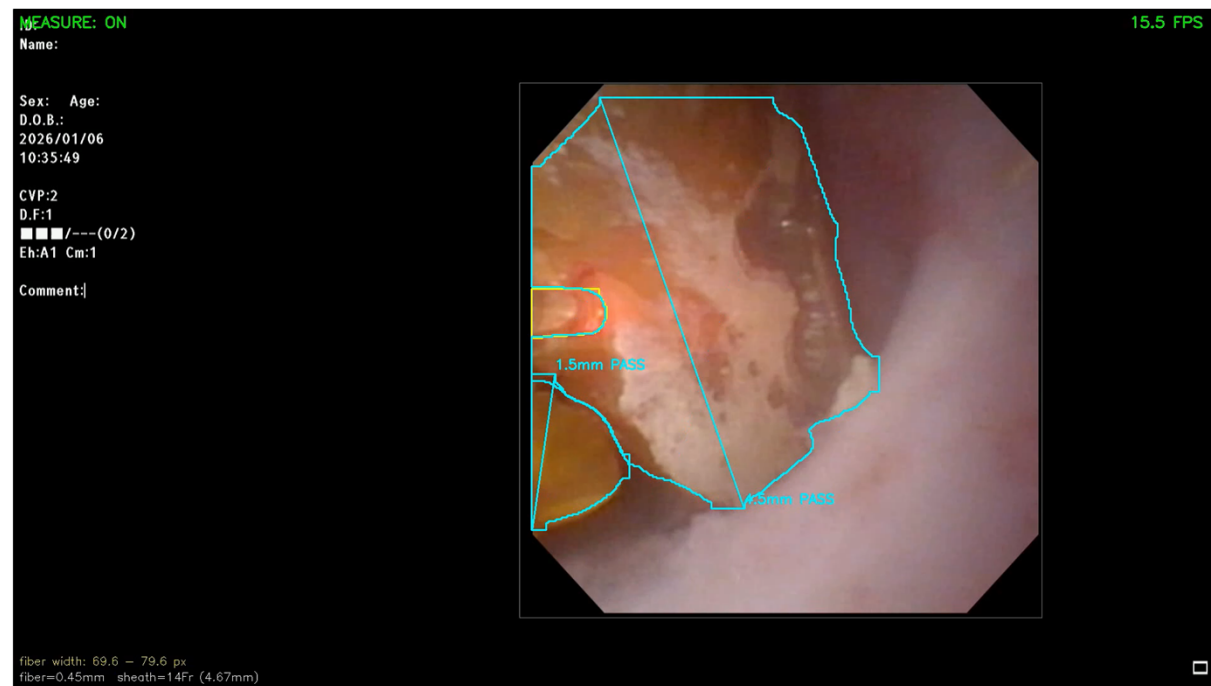
視野不良例

市販のノートPC(10万円強)に
モニターの映像を出力しAIを適用



尿路結石手術に対するAIの活用

結石サイズの推定



レーザーファイバー(直径0.45mm)を基準にして結石最大径を推定 水色は摘出可能、赤色は摘出不可能

当院泌尿器科の特色



- 泌尿器科は、あらゆる領域において日進月歩の発展を遂げており、皆のモチベーションが高いです。
- 近年、高齢化社会により急増している前立腺疾患（前立腺癌や前立腺肥大症）も得意分野としています。
- 浜松医科大学とも密に連携しており、専門性の高い泌尿器疾患や治療にも積極的に対応可能です。

安全で丁寧な診療を心がけて、地域の皆さんに信頼される医療を目指します m(_ _)m

令和8年度診療科別目標発表

呼吸器外科

医師の紹介

呼吸器外科



No.	氏名	役職等
1	江間 俊哉	科部長、科長兼務、第二診療部長がんゲノム医療センターがんゲノム医療室付科部長
2	田尻 智也	医員
3	本間 晃史	医員

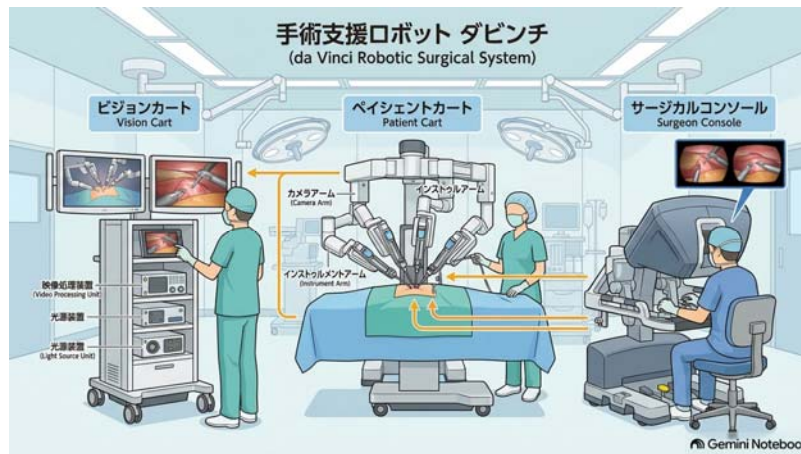
診療実績

手術症例数

	2022	2023	2024	2025
原発性肺癌	62	66	60	59
肺全摘出	0	0	0	0
肺葉切除	56	56	51	48
区域切除	3	8	4	8
部分切除	3	0	5	3
転移性肺腫瘍	6	5	6	3
縦隔腫瘍	10	8	12	4
その他	36	44	40	30
計	115	123	118	96

診療実績

肺癌・縦隔腫瘍ロボット支援手術の保険適用取得（静岡県中部で初）



2021年9月より手術支援ロボット「ダビンチ」を使った肺がん・縦隔腫瘍の手術を実施。

2022年8月より手術支援ロボット「ダビンチ」を使った肺がん・縦隔腫瘍の手術保険診療を開始。

呼吸器外科手術では県中部の医療機関で初めての保険適用である。

(2026年9月現在、志太榛原では唯一の実施施設)



2026年9月現在、術者2名体制でロボット手術を実施。

2025年

田尻 davinci術者資格取得

江間 davinciプロクター資格取得

前任者含めこれまで若手2名の術者を育成

中期目標・令和11年度に目指す姿

令和11年度



肺がん診療を中心とした地域医療への貢献

- ・ ロボット支援手術を中心とした低侵襲治療を継続する。
- ・ 呼吸器外科領域の基幹施設としての機能を維持・強化する。
- ・ 呼吸器外科専門医、ロボット支援手術施行医の育成に注力する。

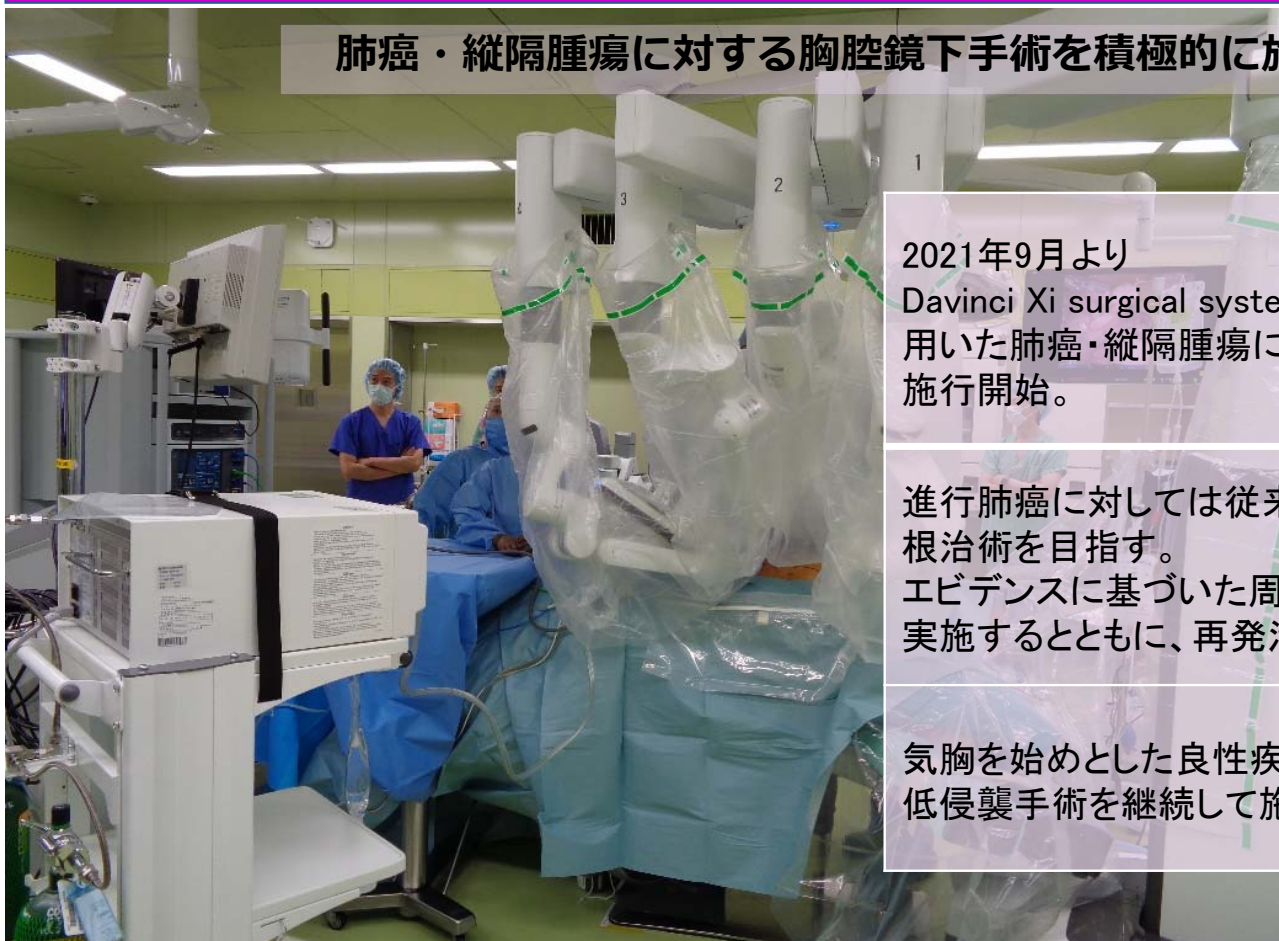
短期目標・令和8～9年度の目標

No.	項目	目標
1	肺癌に対する低侵襲治療の充実	ロボット支援手術、胸腔鏡下手術の拡充
2	進行肺癌に対する集学的治療の実施	低侵襲手術・開胸手術に加え、各科と連携し化学療法、放射線療法を組み合わせた集学的治療を継続する。
3	縦隔腫瘍、気胸などの良性疾患、外傷診療の充実	縦隔腫瘍に対するロボット支援手術や、気胸に対する胸腔鏡下手術を継続して実施。その他手術を要する良性疾患・外傷に素早く対応する。
4	研修制度の充実	研修医、専攻医の教育 ロボット支援手術施行医の育成

呼吸器外科

志太榛原唯一のロボット支援下呼吸器外科手術（肺癌・縦隔腫瘍）施行施設

肺癌・縦隔腫瘍に対する胸腔鏡下手術を積極的に施行



2021年9月より
Davinci Xi surgical system(ダビンチ)を
用いた肺癌・縦隔腫瘍に対する胸腔鏡下手術を
施行開始。

進行肺癌に対しては従来通りの開胸手術により
根治術を目指す。
エビデンスに基づいた周術期補助化学療法を
実施するとともに、再発治療にも注力する。

気胸を始めとした良性疾患に対する
低侵襲手術を継続して施行する。

決 意

- ・ 低侵襲肺がん治療の継続（ロボット支援下手術）
- ・ その他良性疾患・縦隔腫瘍等への対応を通じ、地域に根差した診療を目指します。

令和8年度診療科別目標発表

歯科・口腔外科

当科の特徴・使命

24時間・365日

志太榛原地域唯一の救急歯科・口腔外科疾患、全てに対応しています。

HIV感染症や障害者歯科治療へ対応

志太榛原地域唯一

入院患者さんの口腔ケア・口腔管理

全国の病院口腔ケアのさきがけ

他の地域にはない医師会や歯科医師会との密な

地域連携

医科・歯科・介護連携事業

口腔外科のモットー

1秒を削りだせ！！

苦痛のない口腔外科診療

市立病院口腔外科に紹介してもらって良かった！
市立病院口腔外科に紹介して良かった！！

お待ちしている患者さんを1秒でも早く診察できるように！

歯科・口腔外科のトピック

10月から病院の5階に入院患者専門の
口腔ケアセンター開設しました！



口腔ケアの発展、歯科衛生士の活躍

口腔ケアユニットが
2台導入！
処理能力倍増！



全身麻酔術前口腔ケア
入院患者一般口腔ケア



全身麻酔術前口腔ケア
入院患者一般口腔ケア
食事口腔期栄養管理
口腔リハビリテーション
がん患者の口腔ケア

全て保険点数加算されます

口腔ケアの発展、歯科衛生士の活躍

口腔ケアユニットが1台→2台！
処理能力倍増！

全身麻酔術前口腔ケア
入院患者一般口腔ケア



全身麻酔術前口腔ケア
入院患者一般口腔ケア
食事口腔期栄養管理
口腔リハビリテーション
がん患者の口腔ケア

R 7 口腔外科の実績

当科の診療能力を超えた手術・初診の患者数が来院され窮地に陥っている

初診患者数 病院臨床科全体 1 位

逆紹介患者数 病院臨床科全体 1 位

外来手術は、3 か月待ち

入院手術は、6 か月待ち

R 7 口腔外科の実績

初診患者数 病院全体 1 位 (2 0 2 5)

臨床科

1位 歯科・口腔外科 3 3 8 4 名

2位 ○○内科 1 4 2 5 名

歯科・口腔外科

渡貫 圭	部長 日本口腔外科学会専門医
鈴木那音	医員 日本口腔外科学会認定医
金子和嘉子	非常勤 日本口腔外科学会認定医
中島英行	非常勤 日本口腔外科学会専門医
矢島康治	非常勤 日本口腔外科学会専門医
廣田 誠	非常勤 京都大学口腔外科教授 日本口腔外科学会専門医
渡辺大智	非常勤 日本口腔外科学会認定医
中川洋一	非常勤 前鶴見大学口腔外科教授 日本口腔外科学会専門医

R 8 ・ R 9 年度の目標

診療台 5 台 → 6 台 1 2 0 %

歯科衛生士実働 6 人 → 4 人（R 9 前） → 5 人（R 9 後）

令和8年度診療科別目標発表

呼吸器内科

呼吸器内科 医師紹介



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

呼吸器内科

職名	氏名	卒業年	呼吸器内科専門医
副院長 兼 呼吸器センター所長	小清水 直樹	平成2年卒	●
科部長	松浦 駿	平成15年卒	●
医長	秋山 訓通	平成21年卒	●
医長	田中 和樹	平成21年卒	●
医長	大石 享平	平成25年卒	●
医員	中村 隆一	平成30年卒	
医員	山田 耕太郎	平成31年卒	
医員	山本 雄也	令和2年卒	
医員	藤田 大河	令和3年卒	
医員	松下 翔磨	令和4年卒	
医員	松下 京平	令和4年卒	

呼吸器内科 令和7年度 診療実績

呼吸器内科

入院病名	R5年	R6年	R7年
原発性 肺癌	319	357	328
気管支肺炎・ 肺炎	245	294	235
特発性 間質性肺炎	153	141	153
慢性閉塞性肺疾患(COPD)	38	42	51
気胸 、縦隔気腫	41	38	41
細菌性胸膜炎・膿胸	19	34	31
肺泡出血、 血痰 、喀血	28	29	29
Covid-19	43	79	27
膠原病肺	45	29	22
非結核性抗酸菌症	15	26	21
気管支喘息	24	22	19
過敏性肺臓炎	11	10	17
サルコイドーシス	13	9	5
悪性中皮腫	3	6	3
結核	5	5	3
全入院患者(疑い病名含む)	1390	1509	1302
気管支鏡など検査 (胸腔鏡・超音波内視鏡含む)	344	330	291

呼吸器内科 当科の特徴、強み

呼吸器内科

● **スタッフが充実している**

- ・常勤11人(うち呼吸器専門医5人)

● **呼吸器センターとして、多職種が連携して診療にあたっている**

- ・6職種：診療部、看護部、薬剤部、栄養科、リハビリテーション科、MSW
- ・高齢者は、呼吸器以外の疾患の併存、栄養の問題、精神的・社会的問題など多くの問題を抱えていることが多く、その対応を行うことは全人格的医療に必要です。

● **他診療科との連携がスムーズである**

- ・例) 肺癌：呼吸器外科、放射線科、緩和ケア科などと連携し、集学的治療が可能となっています。

中期目標・令和9年度に目指す姿

呼吸器内科



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

令和9年度

志太榛原地域の呼吸器内科診療の中核を継続
紹介患者さんをお断りすることはありません

- ・ **呼吸器センター**の特性を生かして、全人格的な医療をさらに推進
- ・ 検診による**各種疾患**の早期診断・早期治療による**藤枝市民の予後改善**
- ・ **入院患者の減少傾向**に対し、より**密度の濃い診療**を行う
検診からの新規患者の受診増加の流れを拡充する

短期目標・令和8年度の目標

呼吸器内科



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

No.	項目	目標
1	検診等の拡大・拡充による、 疾患の早期発見・早期治療の充実と 新規入院患者患者数の増加を目指す	・検診・ドックにおける肺がん、間質性肺炎、COPDなど、生命予後にかかわる疾患の読影を行うことで、早期発見による藤枝市民の生命予後の改善につなげる ・患者数の増加にもつなげる ・検診未受診者などの新たな患者の受診を進めるシステム構築
2	多職種連携を生かし、全人格的な医療 をさらに進めることで、 診療所の先生方や患者さんに 選んでもらえるような科を目指す	・患者さんに満足してもらえる医療提供の拡充を継続 ・各部署において、呼吸器に強いスタッフの育成
常時	・診療所との連携強化 ・新規呼吸器感染症への対応 ・入院治療の充実	・医療支援センター・地域医療連携室と協力して、志太地区を中心とした診療所への営業活動の継続 ・医師会との呼吸器疾患の勉強会(年3回) ・新規疾患発生時の迅速な情報収集 ・学会活動などを通じた医療レベル向上の継続

呼吸器内科 P Rしたい内容

呼吸器内科

●多職種連携について

- ・毎月 6 職種でカンファレンス行っています。
テーマ：症例検討、新たな知見・トピックスなど
- ・職種横断的なテーマを共有し、同じ目線で診療にあたることが大切と考えています。

●R6年一般住民に対して「COPD検診」を藤枝市で行いました

- ・結果：約2万人の検診対象者のうち1.3万人に問診票提出いただき、1.4%がCOPDと診断されました。
- ・検診を行うことで、呼吸器疾患の死亡原因第4位のCOPDの認知度向上にも寄与したと考えています。
- ・静岡新聞にも掲載して頂き、島田市、富士市や県外の自治体からも興味を持っていただきました。

決 意

当院呼吸器内科は、
志太榛原地区の呼吸器疾患診療の**最後の砦**
である意識を持ち、
これまでも、**これからも**
診療を継続・牽引していきます。
また、**新規の呼吸器患者の開拓**にも
力を入れていきたいと考えています。
ご紹介また逆紹介の際はよろしくお願い申し上げます。

令和 8 年度診療科別目標発表



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

消化器内科

消化器内科のミッションと経営ビジョン

『市民の命を守り, 地域医療を拓く』

『健全経営』と『高度急性期医療・高度がん医療』

の両立を果たす『藤枝モデル』の確立

高度専門医療を牽引する11名のスペシャリスト体制

No	氏名	役職等	
1	丸山 保彦	副院長、内視鏡センター長	} 消化管
2	吉井 重人	消化器内科部長、がんゲノム医療センター長	
3	景岡 正信	光学診療科部長、第一科長	} 胆・膵
4	大畠 昭彦	第二科長	
5	寺井 智宏	第三科長	} 炎症性腸疾患
6	松浦 友春	医長	} コアメンバー
7	星野 弘典	医長	
8	山田 久修	医員	} 次世代エキスパート
9	山田 健太	医員	
10	杉本 祥拓	医員	
11	酒井 学真	医員	

消化管、胆膵、炎症性腸疾患の各領域を網羅し、シームレスに機能する専門医チーム



診療実績等



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

消化器内科

主な診療実績	R5	R6	R7
外来患者数	133.7人／日	134.5人／日	137.4人／日
入院患者数	49.9人／日	47.4人／日	50.0人／日
新入院患者数	145.3人／月	147.5人／月	150.8人／月

DPC病名別 症例数	R5	R6	R7
胆管(肝内外)結石、胆管炎	223人／年	226人／年	246人／年
膵臓の腫瘍	124人／年	121人／年	175人／年
穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患	123人／年	122人／年	123人／年
胃の悪性腫瘍	102人／年	79人／年	102人／年
食道、胃、十二指腸、他腸の炎症 (その他良性疾患)	88人／年	96人／年	100人／年
結腸(虫垂を含む)の悪性腫瘍	86人／年	102人／年	83人／年
小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍含む)	84人／年	103人／年	86人／年

※girasol抽出データ(MDC6分類)による

ピーター・ドラッカーの要諦

成果は常に組織の外部に存在する

病院の存在意義は、**市民の生命を守り、
地域社会に安心を提供すること。**

藤枝市民の消化器・悪性腫瘍の入院件数が32.7%増加し、地域がん医療の『地元完結』が大きく前進

■ 藤枝市民の悪性腫瘍入院件数：

- ・321件（R6年）→ 426件（R7年）へ急増（+32.7%）。
- ・胃・大腸はもとより、**膵臓がん**など難治性がん治療が藤枝市内でほぼ完結していることを証明。

■ 藤枝市民の入院件数が年々増加：年間1,405件に到達。

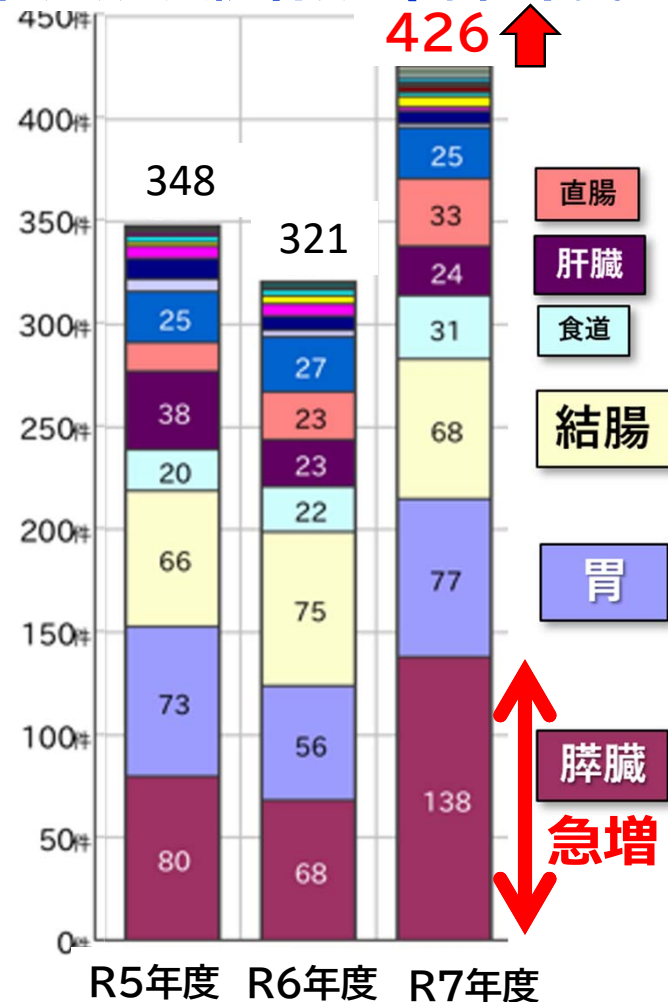
さらに焼津市（150件）・島田市（65件）・牧之原市（77件）・吉田町（72件）・など、近隣自治体からも厚い信頼を獲得。

■ 医療資源の最大活性化：新入院患者数は1ヶ月平均150.8人へ増加。

地域中核の高度急性期医療機関として、極めて高効率な病床稼働と市民貢献を両立。

※出典：girasol抽出データによる

悪性腫瘍 入院件数（藤枝市民のみ）



藤枝市民の入院件数が年々増加し、年間1,405件に到達

■ 藤枝市民の悪性腫瘍入院件数：

321件（R6年）⇒ 426件（R7年）へ急増（+32.7%）。

胃・大腸はもとより、膵臓がんなど難治性がん治療が藤枝市内でほぼ完結していることを証明。

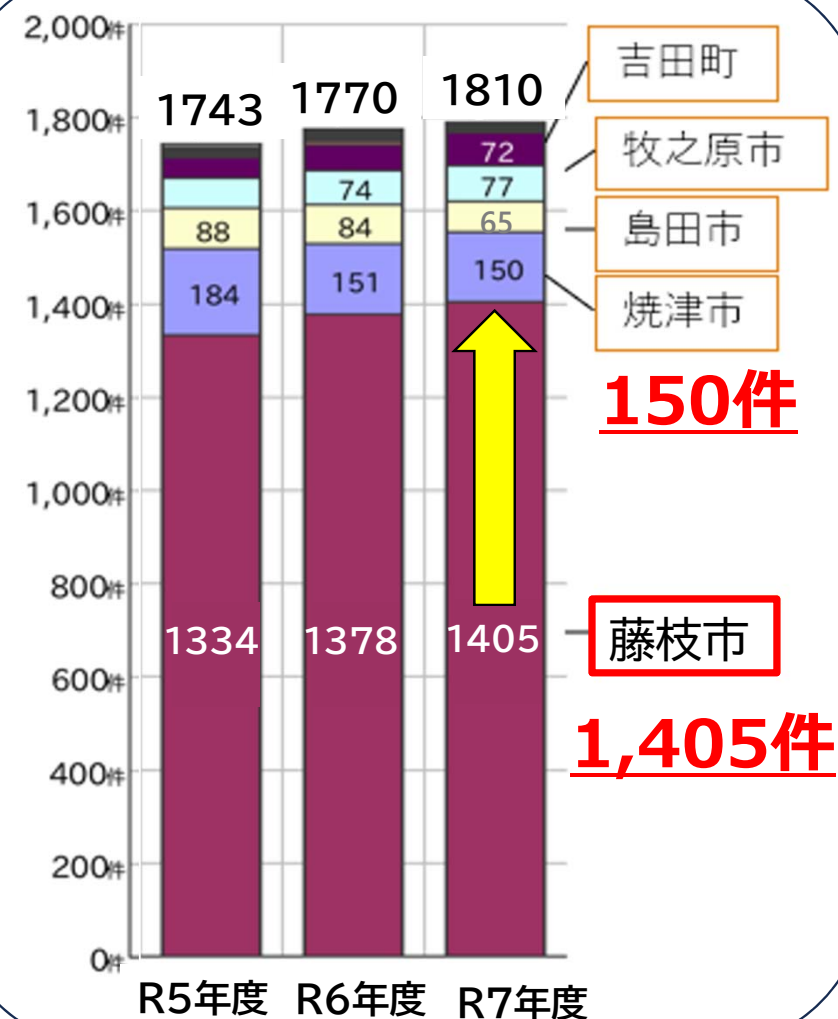
■ 藤枝市民の入院件数が年々増加：年間1,405件に到達。 ・さらに焼津市（150件）、島田市（65件）、牧之原市（77件）、吉田町（72件）など、近隣自治体からも厚い信頼を獲得。

■ 医療資源の最大活性化：新入院患者数は1ヶ月平均150.8人へ増加。

地域中核の高度急性期医療機関として、極めて高効率な病床稼働と市民貢献を両立。

※出典：girasol抽出データによる

当科・入院件数(住所別)



医療資源の最大活性化：新入院患者数は1ヶ月平均150.8人へ増加

■ 藤枝市民の悪性腫瘍入院件数：

321件（R6年）⇒ 426件（R7年）へ急増（+32.7%）。

胃・大腸はもとより、膵臓がんなど難治性がん治療が藤枝市内でほぼ完結していることを証明。

■ 藤枝市民の入院件数が年々増加：年間1,405件に到達。

さらに焼津市（150件）・島田市（65件）・牧之原市（77件）・吉田町（72件）・など、近隣自治体からも厚い信頼を獲得。

■ 医療資源の最大活性化：新入院患者数は年間1,810人、月150.8人へ増加。

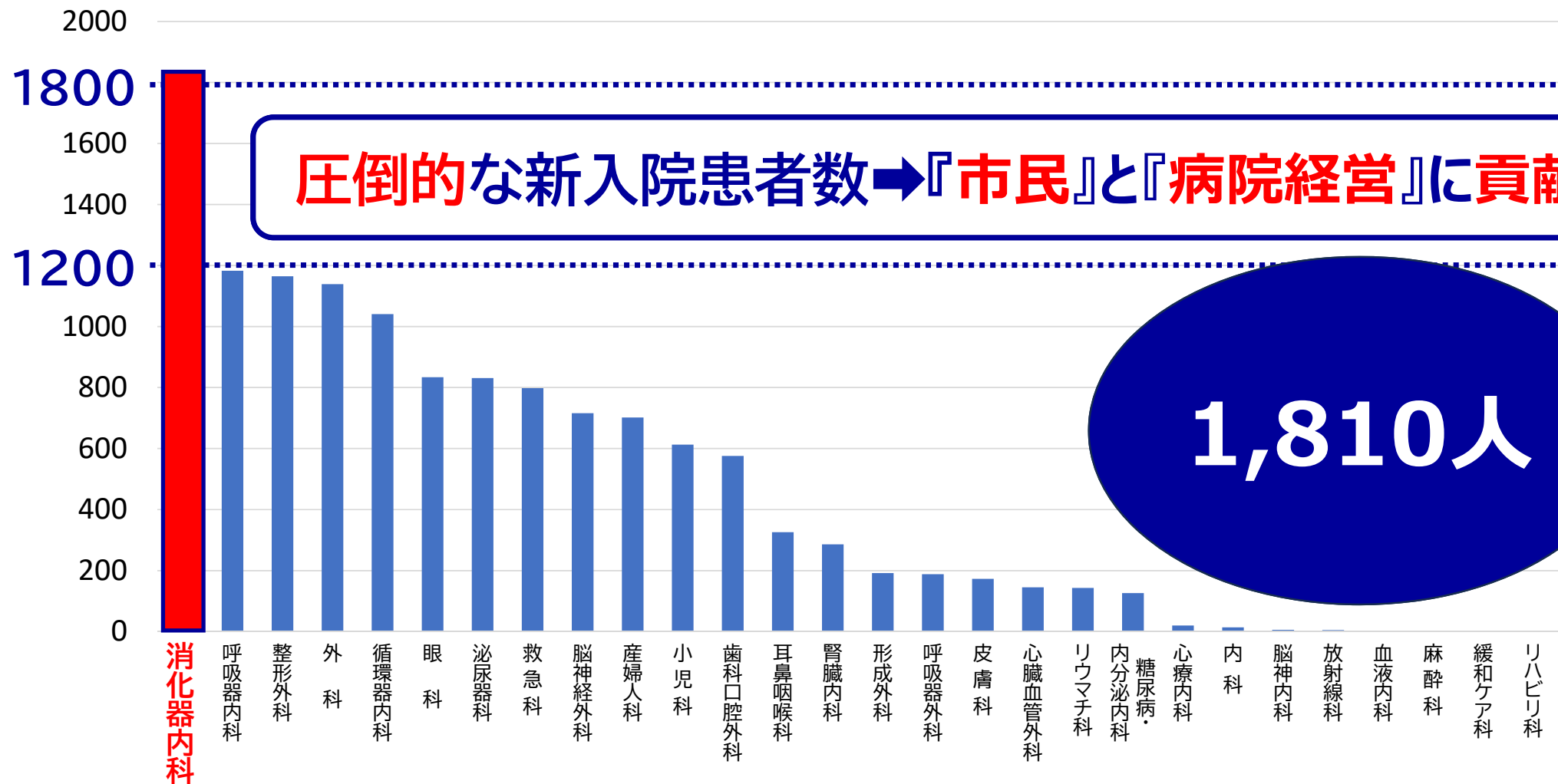
・地域中核の高度急性期医療機関として、極めて効率的な病床稼働と市民貢献を両立。



(患者数)

入院

2025年度 全科・新入院患者数



ピーター・ドラッカーの要諦

組織の目的は顧客の創造である

公立病院における『顧客』とは、『市民』であり、同時に
患者を紹介してくれる『地域開業医』である。

「3つの即応体制」で地域開業医の信頼を確立し、多くの新入院患者数を維持

※ドラッカーの要諦：「組織の目的は顧客の創造である。したがって基本的な機能はマーケティングと革新である」

- 公立病院における「顧客」とは、『**市民**』であり、同時に患者を紹介してくれる『**地域開業医**』である。
- 独自の**3つのアプローチ**で**強固な連携**を築いている。

1

救急・緊急紹介の積極的受け入れ

「断らない急性期医療」の実践

- 消化器救急疾患に対し、昼夜を問わず即座に受け入れる体制を確立。
- 地域の医療機関に『**いつでも任せられる**』という**絶対的な安心感**を提供し、紹介ルートを強固にしている。

2

紹介患者の予約日の迅速な決定

診療までのタイムラグを極小化

- 診療予約の決定を極めて迅速に行い、開業医と患者の待ち時間や不安を最小限に抑えている。
- 高度な専門医療へ直結させるための『**連携の即応性**』が選ばれる理由。

3

紹介患者の丁寧な報告書の迅速な作成

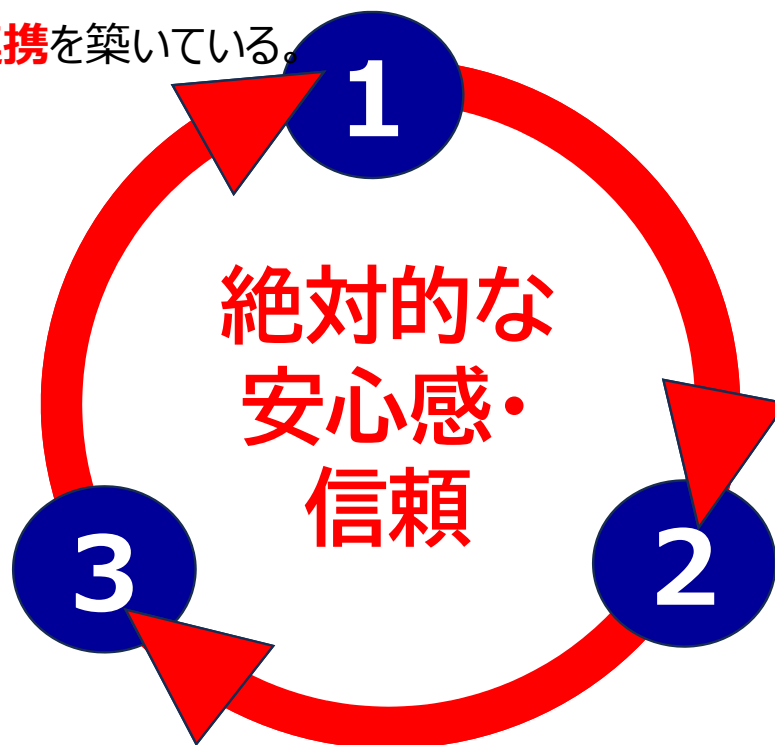
双方向のクローズド・ループ連携

- 検査・治療結果の詳細を網羅した丁寧な返書を、極めて迅速に開業医へ発送。
- お互いの医療の透明性と安心感を高め、『**パートナーとして信頼関係**』を恒久化。

「3つの即応体制」で地域開業医の信頼を確立し、多くの新入院患者数を維持

※ドラッカーの要諦：「組織の目的は顧客の創造である。したがって基本的な機能はマーケティングと革新である」

- 公立病院における「顧客」とは、『**市民**』であり、同時に患者を紹介してくれる『**地域開業医**』である。
- 独自の**3つのアプローチ**で**強固な連携**を築いている。



ループが**高速回転**することで、**地域開業医**との**強固な連携ルート**が構築される。

ピーター・ドラッカーの要諦

強みの上に築け（強みに集中する）

11名の専門医師チームがそれぞれの強みを最大限に発揮し、**高度**かつ**安全**な**臨床成果**を達成。

膵腫瘍治療が44%急増するなど、11名の専門チームが強みに集中してイノベーションを牽引

■ 11名の高度専門医体制

消化管専門、胆膵専門、炎症性腸疾患専門に加え、中堅・若手を含む11名がシームレスに機能。

■ 難治性胆膵疾患の急激な治療件数拡大

- ・**膵腫瘍**：121人/年(R6) → 175人/年(R7)へ**飛躍的増加(+44.6%)**
- ・胆管結石、胆管炎：226人/年(R6) → 246人/年(R7)へ拡大。

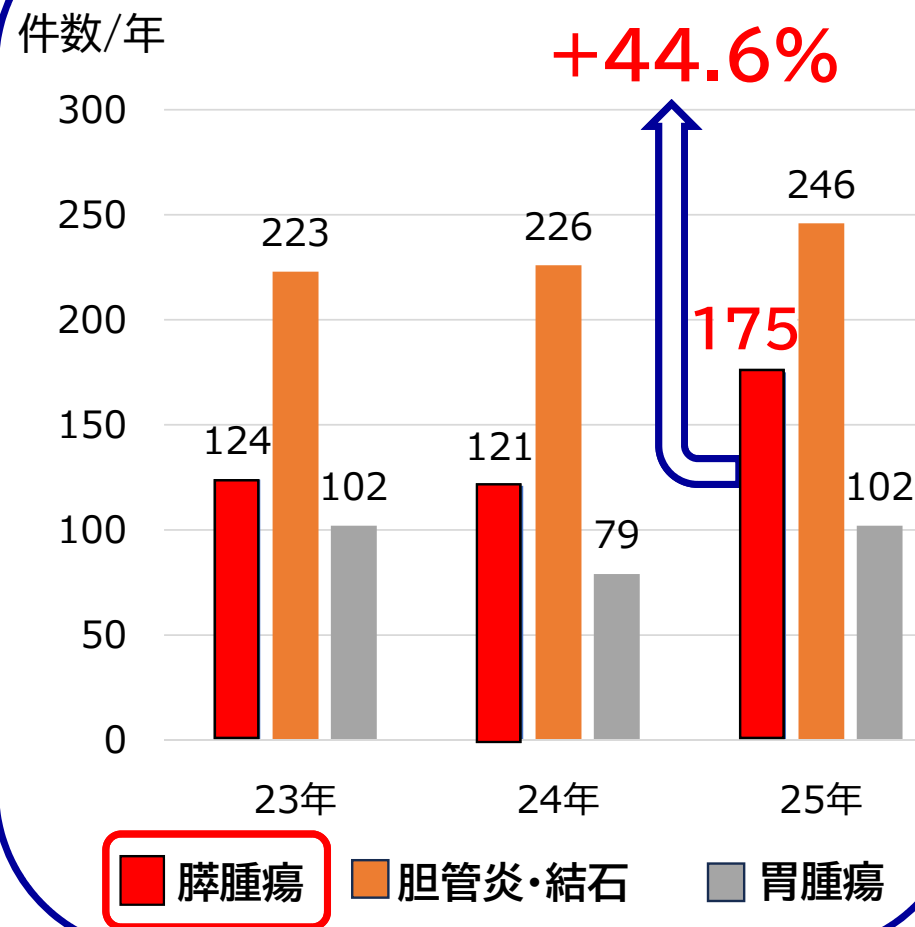
■ 悪性腫瘍治療の活性化

- ・胃悪性腫瘍：前年の停滞から回復し 102人/年(R7)へ到達。
- ・高度がん化学療法、低侵襲・内視鏡治療など強み領域で**高難度DPC症例**を実現。

■ 炎症性腸疾患数の増加

- ・難治性炎症性腸疾患の紹介患者の増加。

専門領域症例件数



専門性を磨き上げる

※ドロッカーの要諦:「強みの上に築け(強みに集中する)」

1

静岡がんセンターとの 遠隔医療プロジェクト

- Webを介して、**静岡がんセンター**と**がん薬物療法**について定期的に**ミーティング**を行い、**薬物療法**のスキルアップを図る。

デジタル
ネットワーク



2

各種臨床試験

- **大腸がん**の薬物臨床試験
(西日本がん研究機構主導)
- **自己免疫性胃炎**研究
(日本消化器内視鏡学会主導)
- **総胆管結石**の臨床試験
(日本胆道学会主導)
- **膵癌リスク**・臨床研究
(企業治験) ... etc.

3

学会活動

- 各種専門学会への積極的な参加・発表を通して、**最新の知識**を吸収。
- **若手医師の奨励賞受賞**。

藤枝大腸がん死撲滅プロジェクト(案) (藤枝モデル)

国内の**大腸がん罹患数**は**第1位**、**死亡数**は**第2位**。しかし、早期発見で5年生存率9割を超える。

大腸がん検診(便潜血検査)の逐年受診勧奨

1
ナツジ

陽性者のスクリーニング

要精検者による選択

2

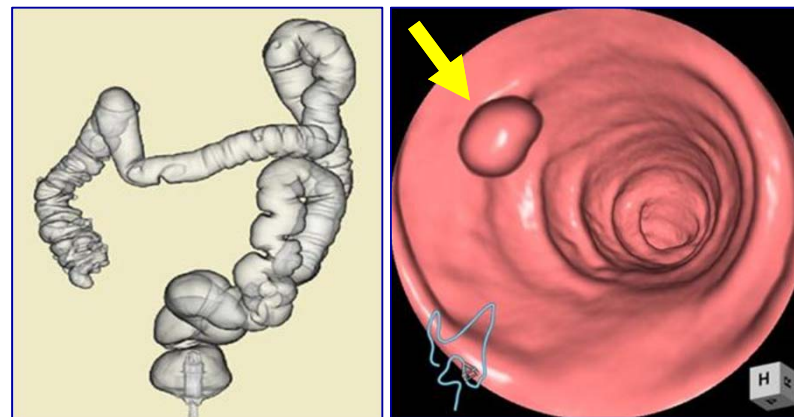
【通常ルート】
大腸内視鏡検査

【トラウマ/不安回避ルート】
大腸CT検査

がんの早期発見と早期治療

この取り組みを『**藤枝モデル**』として全国に発信する

大腸CT検査



CTで大腸を撮影し、コンピューター処理によって大腸の3次元画像を作成

体への負担が少ない

中間目標・令和9年度に目指す姿

ビジョン

1

『開業医との
連携強化・効率化』
紹介受入・逆紹介シス
テムの強化し、紹介率
向上と患者アクセスの
最適化を図る。

2

『高度がん医療・
ゲム医療の推進』
最先端の低侵襲治療・
精密医療の拠点として
競争力と信頼性を
高める。

3

『病床運用の最適化と
医師働き方改革の両立』
医師のタスクシフト・シエ
ア、
入院受入・診療プロセスの
標準化により効率的な
病床管理を推進。

4

『多職種との
連携強化』
チーム医療を極限ま
で高め、患者一人ひ
とりの診療プロセス
を最適化する。

消化器内科チーム医療

決意

消化器内科

我々は、『**連携・効率化モデル**』をさらに進化・発展させる。

『**健全経営**』と『**高度医療**』を高次元で両立させ、

当院の『**収益性**』と『**市民価値**』の**最大化**を実現する。

『次世代・藤枝モデル』

藤枝バーチャルホスピタル構想



デジタルネットワークで地域全体を1つの『仮想病院』
へ統合するパラダイムシフト

令和8年度診療科別目標発表



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

乳腺外科

医師の紹介

乳腺外科

認定施設

日本乳癌学会認定施設

乳腺外科新専門医制度連携施設

日本遺伝性乳癌卵巣癌症候群

総合診療制度機構協力施設

乳房再建用エキスパンダー/インプラント実施施設

ラジオ波焼灼術（RFA） 日本乳癌学会承認施設

No	氏名	役職・専門医・指導医等
1	長谷川 聡	科部長、日本外科学会指導医・専門医 日本乳癌学会乳腺専門医・指導医
2	瀧 由美子	科長 日本外科学会専門医、日本乳癌学会乳腺専門医、 臨床遺伝専門医
3	甲斐 三紀子	医長 日本外科学会専門医、乳腺外科専門医（新制度）

診療実績等

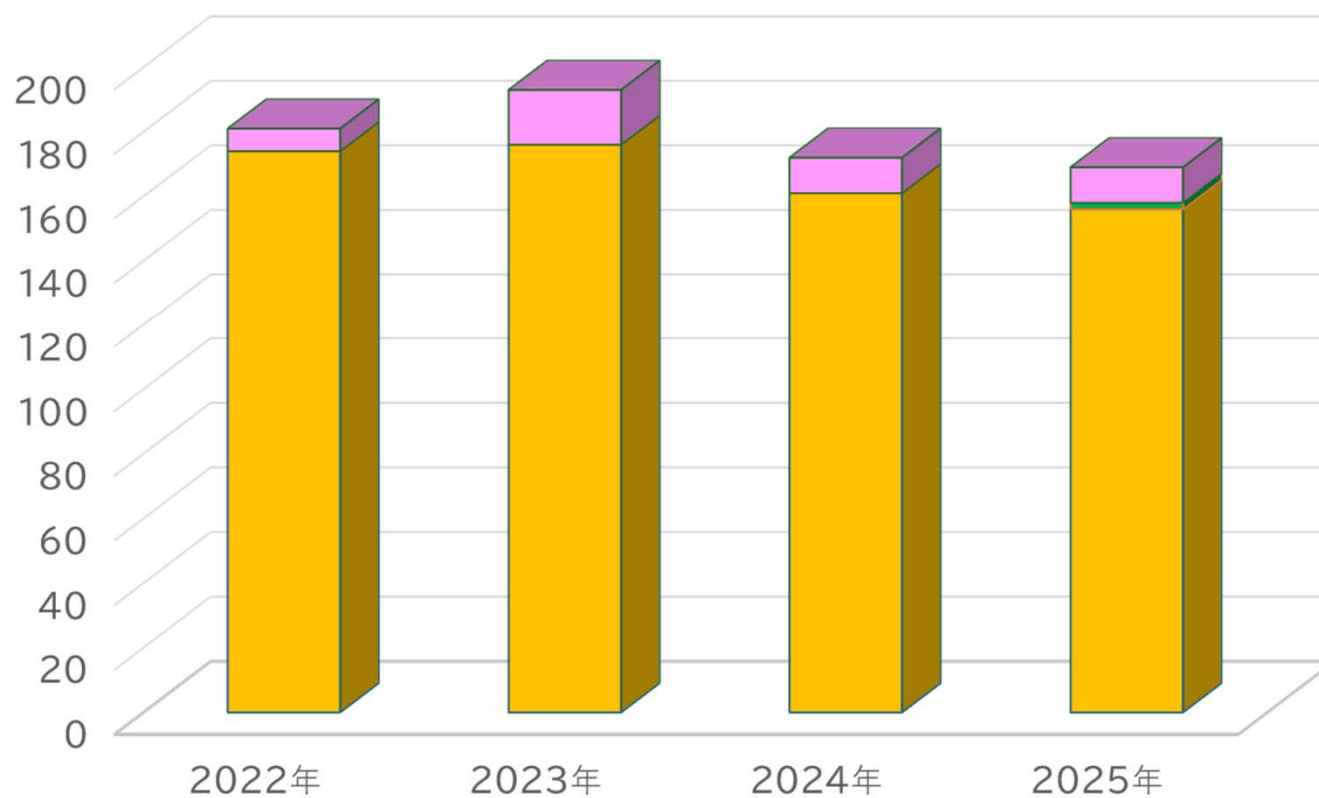


藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

乳腺外科

手術件数の推移

■ 乳癌手術件数 ■ HBOC 予防的切除 ■ 良性腫瘍



令和6～7年度の成果

乳腺外科



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

No.	項目	目標
1	チーム医療の充実・ 多職種連携	ブレストケアナースの現地での活躍 がん相談支援センターの利用率の向上
2	地域に密着した医療の実施	医師会・診療所との連携強化 地域連携パス 医学情報誌 BRIDGEより取材を受けました
3	乳腺外科医の育成	乳腺外科専門医 3人体制
4	低侵襲手術の充実	早期乳癌に対するラジオ波焼灼の導入
5	高度な医療提供体制の整備	HBOCに対する予防的乳房切除の導入

令和6～7年度の成果

乳腺外科



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

～健康寿命延伸へ繋げるために～ 日常診療の最前線!

乳がんの地域連携

患者さんの安心を繋ぐために

治療が長期にわたる乳がん診療において、拠点「地域連携」の重要性が高まっています。一方で、いかに解消するかは、実臨床における大きな課題です。今回は、地域連携の最前線に立つ藤枝市立総合病院の長谷川聡先生に、患者つけ医とスムーズに連携するための臨床現場

病院と地域のかかりつけ医が役割を分担するがん専門病院から地域に戻る患者さんの不安を課題です。今回は、地域連携の最前線に立つ皆さんの安心を繋ぐ実践的な取り組みや、かかりの知見を伺いました。

藤枝市立総合病院 乳腺外科 科部長
兼 がんゲノム医療室付科長
長谷川 聡 先生

14 / 32 BRIDGE

BRIDGE 15 / 32

乳腺外科



乳がん患者数の増加や術後フォローアップの長期化が進む中、がん診療連携拠点病院だけで患者さんを支え続けることは難しくなっています。こうした状況の中での重要性を増しているのが、拠点病院とかかりつけ医が役割を分担しながら診療を行う地域連携です。

藤枝市立総合病院では、乳がん術後患者を対象とした地域連携バスを運用し、地域全体で患者さんを支える体制作りを進めています。地域の医療機関との協働体制の構築・発展に取り組む長谷川聡先生に、地域連携の現状や課題、かかりつけ医に期待する役割などについてお話を伺いました。

 地域全体で支える
乳がん術後フォローアップ

現在の乳がん診療は、術後も長期にわたるフォローアップが必要になります。特にホルモン受容体陽性乳がんでは、術後内分泌療法を5年、場合によっては10年間継続します。こうした患者さん全員を拠点病院で継続的に診療し続けることは、今後の患者数増加を考えると容易ではありません。再発リスクが低く病状が安定している場合は、かかりつけ医と連携しながらフォローアップを行うことが十分

かかりつけ医の先生方が拠点病院と連携を取る際に「専門でないから」という不安を取り除く、いかにして地域連携を実施する際の敷居を下げていくかが鍵になります。当院では、主に術後内分泌療法を継続している患者さんを対象に連携を進めています。術後約1年経った当院で経過観察を行い、再発リスクが低く病状が安定していれば地域の医療機関へ一転紹介し、その後が安定かつかかりつけ医が診療を担当しなれば乳がんが、地域連携/スを活用した医療連携のひとつでフォローアップの対象となります。もちろん、すべての患者さんで地域連携の連携をとるわけにはありません。腫瘍マーカーの変動がみられる場合や高リスク乳がんや治療管理が複雑になる場合などは、引き続き当院でフォローアップを行っています。

当院では、かかりつけ医の先生方との連携にあたり、医療機関用の乳がん地域連携パス（共同診療計画書）と患者さん用の乳がん地域連携パス手帳を整備しています（図1）。

【医療機関用】

読研目標年度への目標 無償内容と延滞について

申込年度	申込年度～	申込年度～10年
読研10年とは申込年度～の 申込年度	1年	1年 2年
印刷	20 月ごと	40 月ごと 80 月ごと
録音	80 月ごと	40 月ごと 80 月ごと
英語本コー	部分印刷の費用を含む 40 月ごと	

2010年12月現在

[illegible]

【患者さん用】

乳がん地域連携・ケアモデル

[illegible]

基本的な運用としては、術後の定期検査を当院で実施し、その間の診療を地域の医療機関に担っていただく形をとっています。3カ月または6カ月ごとの診察や採血、必要に応じた乳腺超音波検査などはかかりつけ医が実施し、年1回は当院で画像検査を含めた評価を行います。地域連携パスについては、できるだけシンプルな運用となるよう意識を重ね、地域の若手の方の負担軽減にも配慮し、看護局

や事務スタッフの意見も取り入れてきました(図2)。現在、460名以上の患者さんが乳がん地域連携パス手帳を利用しており、100施設を超える地域医療機関との連携のもとで運用しています。この乳がん地域連携パスを運用する上で欠かせないのは、互いに役割を押し付けるのではなく、困った時にすぐ相談できる関係を築くことです。

また、地域の医療機関へ逆紹介した後も、患者さんとの

経皮的ラジオ波焼灼療法(RFA)について

実際の流れ

センチネルリンパ節生検

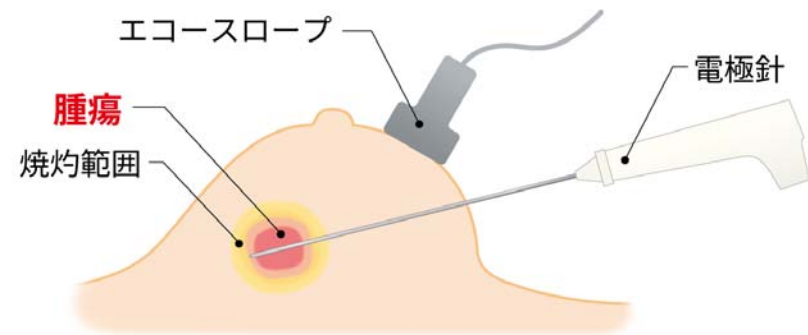


エコー下で直径1~2mmの電極を刺入

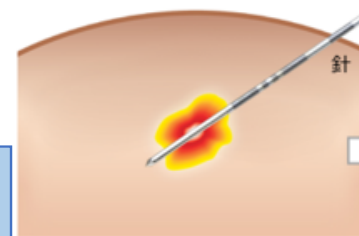


472kHzのラジオ波を流して70℃ 10分加熱

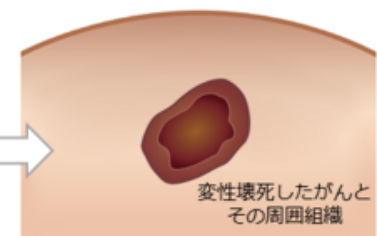
手術時間は約1時間、入院期間は4~5日程度



ラジオ波焼灼療法治療中



治療後



ラジオ波焼灼療法ではしこりに細い特殊な針を刺し、針から発生する電磁波によって組織を加熱し、変性壊死させます

乳がんを早期発見が、治療を変える

① 現在の乳がん検診のエビデンス

- 死亡率減少効果が確立している対策型検診は、現時点ではマンモグラフィのみ
- J-STARTでは、40歳代女性においてマンモグラフィ＋超音波併用により乳がん発見率の向上が示された

② 当院のプチドックの特徴：3Dマンモグラフィ ＋ 乳腺エコー

- マンモグラフィでは石灰化や構築の変化を評価
- 乳腺エコーでは高濃度乳腺内の腫瘍を評価することで、小さな乳がんを発見できる可能性を高めます

③ 早期発見が治療を変える

「早く見つける」から「切らずに治す」へ

小さく発見することで、より身体への負担が少ない治療へ

検診 → 精密検査 → 早期診断 → 低侵襲治療

当院では早期乳癌に対する****経皮的ラジオ波焼灼療法(RFA)****の導入しました

中期目標・令和9年度に目指す姿

乳腺外科



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

令和9年度

がん検診の充実・患者啓発活動の充実

乳がん検診：40歳台でのマンモグラフィー＋超音波併用検診導入
あるいは当院のプチドックの普及



低侵襲治療：経皮的ラジオ波焼灼療法(RFA)

学校がん教育への参画 従来の市民公開講座では検診受診率は増加しないため
子供の時よりヘルスリテラシーを高め、自分自身だけでなく
家族へも良い影響を与えヘルスリテラシーが高まる

決 意

これまで築いてきた地域連携を基盤に、
乳がんの早期発見から低侵襲治療まで、
患者さんに寄り添った質の高い医療を提供しま
す。

さらに、検診啓発活動と次世代人材育成を通じ
て、藤枝地域の乳がん診療を未来へつなぐ
持続可能な乳腺医療体制の確立を目指します。

令和8年度診療科別目標発表



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

皮膚科

医師の紹介



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

皮膚科

No.	氏名	役職等
1	矢田貝 剛	科長
2	杉浦 綾香	医員
3	村上 萌	(非常勤)

中期目標・令和9年度に目指す姿

皮膚科



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

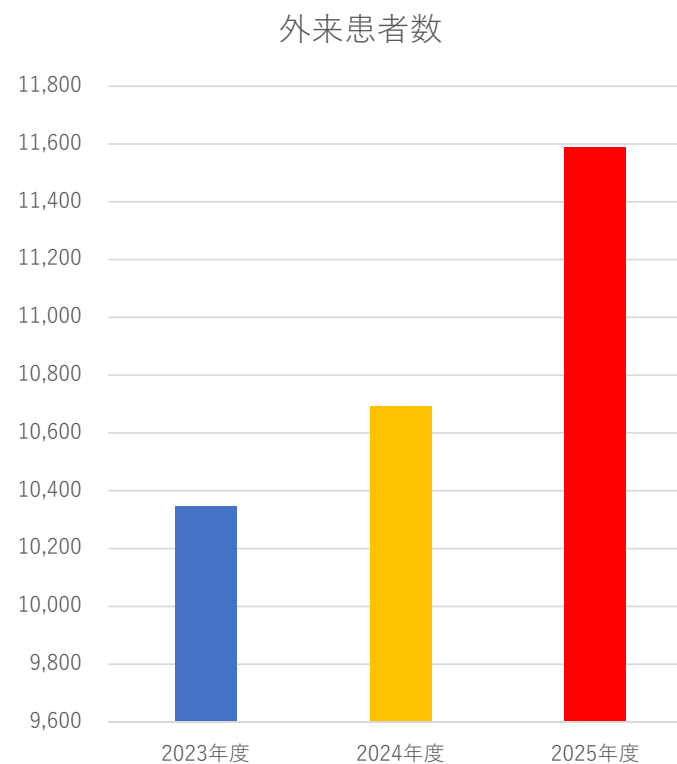
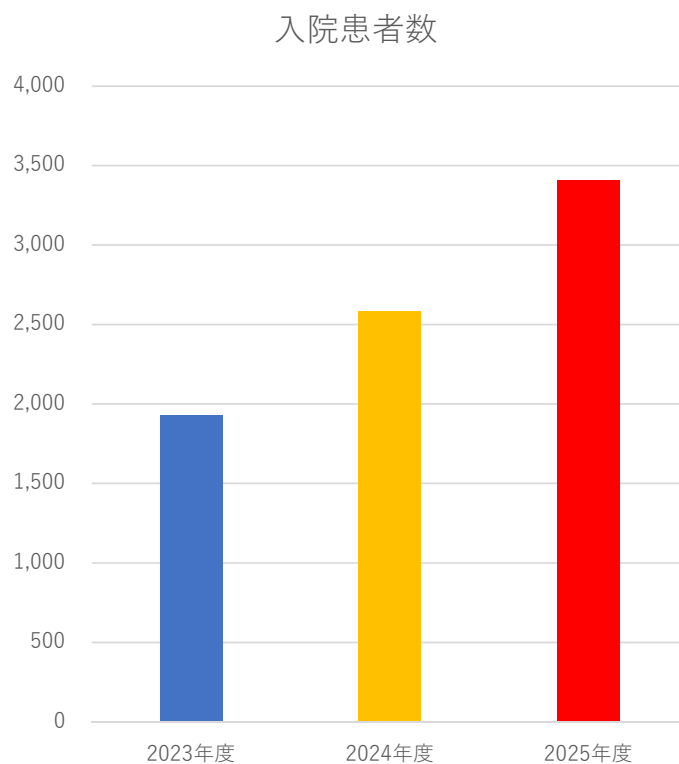
令和9年度



炎症性皮膚疾患の拠点病院

- ・ 志太榛原地域の炎症性皮膚疾患診療の拠点となる
- ・ 皮膚科専攻医の教育施設として充実を図る
- ・ 志太榛原地域の難治症例の受け皿となる

外来患者、紹介患者数



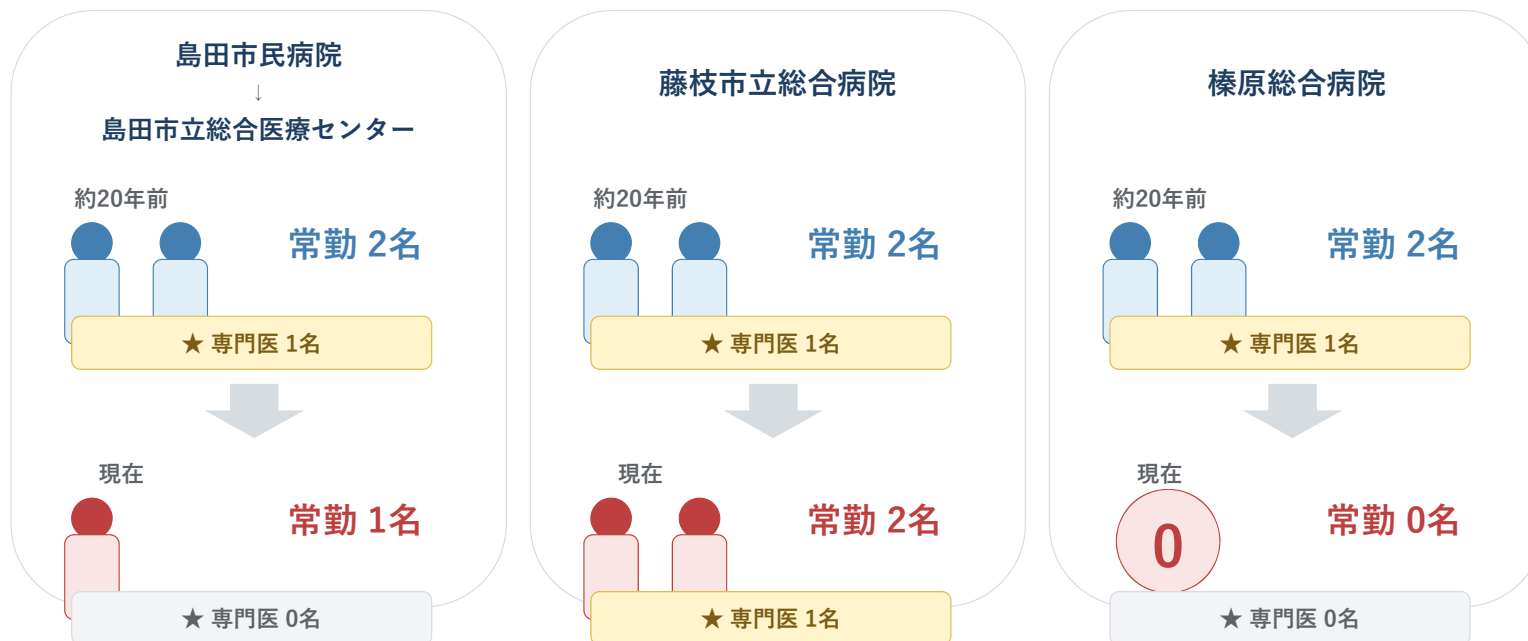
志太榛原医療圏 3病院における皮膚科医師・専門医体制の変化

約20年前 → 現在 | 常勤医数と専門医数の変化

常勤皮膚科医

6名 → 3名 (半減)

専門医 3名 → 1名



常勤医数 6名 → 3名 (半減) | 専門医数 3名 → 1名 (藤枝市立総合病院のみ)

救急外来における皮膚科診療マニュアルの作成

- マニュアル作成の背景・目的
- 近年、**皮膚科医の人手不足**や**皮膚疾患患者の増加**により、皮膚科診療を効率的に行う必要性が高まっている。
一方で、皮膚疾患に関するガイドラインの整備が進み、**診断・治療の標準化**が図りやすくなっている。
- 以上を踏まえ、**一部の皮膚疾患について診療マニュアルを作成し、時間外労働の削減を目指すとともに標準的な診療を実践できる体制を整えることとした。**

短期目標・令和8～9年度の目標

皮膚科



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

No.	項目	目標
1	薬物療法の強化	乾癬、アトピー性皮膚炎に対する総合病院に特化した薬物療法の治療件数を増加させる
2	志太榛原地域からの紹介の強化	志太榛原地域の開業医、総合病院と連携し、地域医療に貢献する
3	稀な皮膚疾患への対応	他院での対応困難な皮膚疾患への診療を行う

決 意

志太榛原地域の中心として
炎症性皮膚疾患の先端治療、
難治症例の診療を行います。

令和8年度診療科別目標発表



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

耳鼻咽喉科

医師の紹介



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

耳鼻咽喉科

No	氏名	役職等
1	森田 祥	科部長(2022年4月～)
2	丹羽 彩	医員(2026年8月～産休・育休、明けて復職予定)
3	千野 帆夏	医員(2026年4月～)

診療実績等

耳鼻咽喉科

年間 平均	R6(2024)	R7(2025)
外来 患者数(※)	25 人/日	26 人/日
入院 患者数	5.6 人/日	7.5 人/日

※外来患者は適正数で・・・

当院加療必要症例を御紹介頂き、
安定症例を近医へ御紹介する
病診連携が重要。

(多ければ良いわけではない)
単位：人

術式	2024	2025
鼓膜チューブ留置(外来除く)	8	5
鼓膜形成(外来除く)		
鼓室形成・乳突削開	4	4
他耳手術(異物、外耳道形成)	2	1
耳瘻孔摘出	5	2
扁桃摘出(含アデノイド)	84	51
咽頭形成	1	2
他口腔咽頭良性疾患手術	3	3
副鼻腔(含む嚢胞)	48	31
鼻中隔(+甲介)	24	39
他鼻手術(鼻前庭、骨折など)		1
喉頭微細手術(LMS)	7	7
深頸膿瘍切開	3	2
頸嚢胞		
耳下腺	6	5
顎下腺	4	1
甲状腺	11	8
副甲状腺		
頸部郭清	1	2
舌部分切除・口腔悪性手術	1	1
他悪性腫瘍手術	2	
他頸部良性疾患手術(含気切)	3	4
リンパ節生検	15	13

中期目標・令和9年度を目指す姿

耳鼻咽喉科



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

令和9年度



病診連携の充実、地域の中核病院としての耳鼻咽喉科疾患への対応

- ・病診連携の充実
- ・急性期病院としての耳鼻咽喉科疾患への対応

短期目標・令和8年度の目標

耳鼻咽喉科

・病診連携の充実

近隣の耳鼻咽喉科を始めとした開業医の先生方と連携し、入院他総合病院での治療が必要な症例を御紹介頂く。
安定して継続的な加療が必要な症例を御紹介する。

当院当科では対応困難な耳鼻咽喉科疾患の症例について、浜松医科大学附属病院を始めとする高次機能病院と連携し、患者さんが適切な治療を受けられるようにする。

・急性期病院としての耳鼻咽喉科疾患への対応

他科・他部署とも連携して、耳鼻咽喉科領域疾患の緊急対応を行う。

・第3次中期経営計画に則った、医療従事者の働き方改革推進

育児家事介護など個人としての生活と仕事との両立（性別は不問）
完全主治医制の見直し（特に外来）

決 意

耳鼻咽喉科常勤医のいる
県中部の中核病院の一つとして、
地域医療に貢献する。

令和8年度診療科別目標発表



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

地域の子どもを支える

二つの重点領域

小児科

NICU・新生児医療

心身医療

診療体制

小児科

常勤7名、嘱託3名。幅広い世代が診療と教育を支えます



常勤 7名

中島隼也 (H19) 内村真介 (H26) 椎名晃平 (H26) 千野颯太 (R2)
栗原綺音 (R5) 努人ピリヤンカ (R5) 戸田 龍 (R6)

嘱託 3名

池谷 健 (S53) 久保田 晃 (S60) 朝倉 功 (H11)

専門領域

新生児医療 心身医療 血液 小児集中治療

診療実績

小児科

4～7月実績。比較条件をそろえて前年度と比較



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

指標	比較単位	2025年度	2026年度	増減
外来延べ患者数	月平均	884人	1,029人	+16.4%
救急外来患者数	4～7月	446人	377人	-15.5%
救急からの入院	4～7月	93人	80人	-14.0%
入院延べ患者数	月平均	374人	296人	-21.0%

外来延べ患者数

1,029人／月

前年度月平均比 +16.4%

救急からの入院率

21.2%

前年4～7月 20.9%

入院延べ患者数の内訳（月平均） NICU 87人 4A小児 209人

外来・入院延べ数は2025年度の月平均と比較。救急は2025年4～7月と比較。

令和8年度の重点方針

小児科

二つの重点領域を、一般小児・救急診療が下支えします



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

NICU・新生児医療

地域の出生を支える 医療インフラ

安定した受入体制と人材育成

心身医療

これからの小児医療の 重要課題に応える

発達・不登校・睡眠・心身症

一般小児・救急診療

地域からの幅広い紹介を受ける入口

NICU・新生児医療の充実

小児科

地域の出生を支える医療インフラとして



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

安定して受け入れ、 地域で支える

NICUの診療体制を整える

診療経験をチームで共有し、若手を育てる

産科・地域医療機関との連絡を密にする

連携先

院内産婦人科・周産期部門

地域の分娩施設・医療機関

救急・搬送に関わる機関

行政・保健

地域内で安全に出生を支えられる体制へ

心身医療の強化

小児科

発達・不登校・睡眠・心身症に、地域全体で向き合います



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

これからの小児医療で、 重要性が増す領域

相談を受けられる外来を育てる

身体症状と生活背景を一緒に捉える

医療の外にある支援へ確実につなぐ

連携先

地域の医療機関

学校・園・教育委員会

行政・保健・福祉

院内各診療科・専門職

子どもと家族を孤立させない支援の輪へ

一般小児・救急診療が地域の入口

小児科

まず相談を受け、必要な診療や支援へつなぎます



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

地域医療機関からの紹介

一般小児・救急診療

幅広い相談の入口

NICU・新生児医療

行政・学校・保健福祉
からの相談

心身医療

紹介しやすい

相談しやすい

一緒に考えられる

令和9年度に目指す姿

新生児医療と心身医療を両輪に、 地域の子どもの切れ目なく支える

地域の医療機関、行政、学校、保健福祉と、
顔の見える連携を広げます

子どものことで困ったら、まず当科へご相談ください

令和8年度診療科別目標発表



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

形成外科

医師の紹介



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

形成外科

No.	氏名	役職等
1	森田 勝	科部長、褥瘡管理室長
2	横山 紗妃	医員

診療実績等



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

形成外科

主な診療実績	R5	R6	R7
外来患者数	28.6人／日	28.9人／日	20.7人／日
入院患者数	15.6人／日	15.2人／日	12.9人／日
新入院患者数	23.6人／月	23.8人／月	16.0人／月
手術室手術件数	28.3件／月	26.2件／月	20.3件／月

DPC病名別症例数	R3	R4	R5
骨軟部の良性腫瘍(脊椎脊髄を除く)	48人／年	31人／年	32人／年
皮下軟部損傷・挫滅損傷、開放創	30人／年	19人／年	17人／年
糖尿病足病変	28人／年	19人／年	17人／年
その他の新生物	19人／年	32人／年	12人／年
皮膚の悪性腫瘍(黒色腫以外)	16人／年	25人／年	31人／年

※girasol抽出データ(MDC6分類)による

形成外科が取り扱う分野（日本形成外科学会ホームページにも記載）

外傷（けが）

- ・ 体表部の外傷
 - ・ 顔面骨骨折
 - ・ 切断指
 - ・ 熱傷
- など

美容（自費診療）

脱毛、シミ取り、重瞼 など

腫瘍（できもの）および再建

- ・ 皮膚良性腫瘍
- ・ 皮膚悪性腫瘍（皮膚癌）
- ・ 乳房再建

その他

- ・ 糖尿病性足病変
 - ・ 重症軟部組織感染症（壊死性筋膜炎）
 - ・ 褥瘡
 - ・ 他科手術創の治療
- など

先天異常（生まれつきの病気）

- ・ 多指症（多趾症）
- ・ 耳瘻孔、臍ヘルニア など

・患者のニーズは十分にある

近年、美容医療に対するハードルは下がっている
それでも、いわゆる美容クリニックはハードルが高いと感じている人も多い

当院で行うことの、安心感（無理な勧誘はしない、無茶なことはしない）

患者だけでなくお見舞いの人など多くの方が来院するため、そこからの口コミも期待できる。一度来たことのある病院という、アクセスのしやすさもある

保険診療の延長として脱毛が必要な患者もいる

・保険診療の知識・経験がある形成外科が美容を担うべきという啓発

倫理観を持った医師の育成 いわゆる直美（ちよくび）問題

専門知識のある医師が担当し、美容関連のトラブルの相談窓口になれる

・主な検討課題

診療時間・治療費：自費診療をやるからには、ある程度の利益を生み出す必要もあるが、
近隣の美容クリニックと競合しないように協力体制を構築することも重要

短期目標・令和9～10年度の目標

形成外科



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

No.	項目	目標
1	美容医療(自費診療)	レーザーによる脱毛・シミ取り治療を開始
2	医師の育成	専門医を取得する医師への指導・教育

中期目標・令和12年度に目指す姿

形成外科



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

令和12年度



新たな治療を開始し、患者の満足度を上げる

- ・美容医療（レーザーによる脱毛・シミ取り）を開始したい

新たな診療を開始することで、既存の保険診療が必要とされる新規患者の開拓・獲得も見込める

- ・常勤医の確保・増加

決 意

現状の勤務を継続し、地域のニーズに沿うような自費による美容診療にも取り組む

令和8年度診療科別目標発表



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

外科

医師の紹介

外科



胃外科		大腸外科		肝胆膵外科		血管外科	
神谷 欣志（甲状腺）		中村 利夫（院長）		前間 篤 東 正樹 星川真有美		夏目佳代子 見原遥佑（非常勤）	
一般外科、消化器外科（外科専攻医、レジデント）						小児外科	
臼井 佑希		杉村 朗		高橋 洵		小寺 伶奈	
						藤代 準（非常勤）	

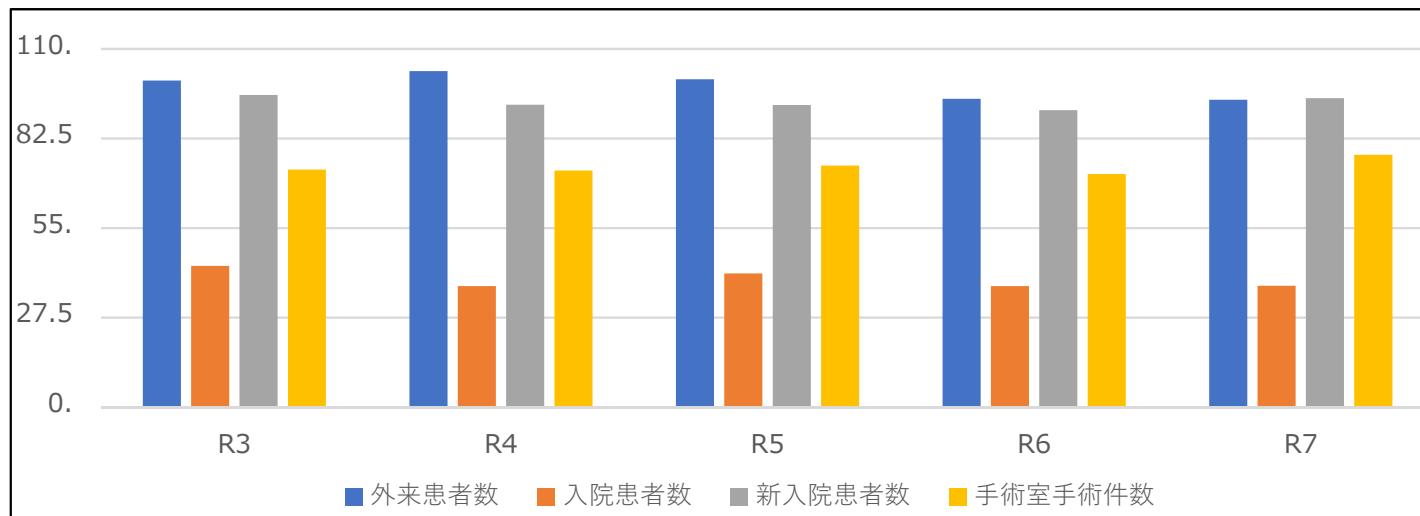
診療実績



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

外科

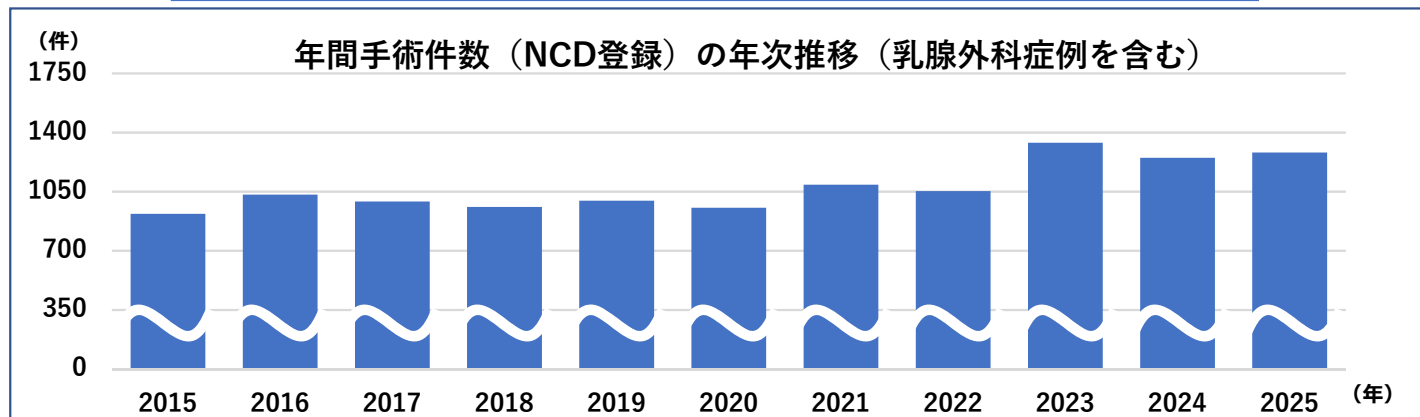
主な診療実績	R3	R4	R5	R6	R7
外来患者数	100.3人／日	103.2人／日	100.7人／日	94.7人／日	94.4人／日
入院患者数	43.4人／日	37.2人／日	41.1人／日	37.2人／日	37.3人／日
新入院患者数	95.9人／月	92.9人／月	92.8人／月	91.2人／月	94.9人／月
手術室手術件数	73.0件／月	72.7件／月	74.2件／月	71.6件／月	77.5件／月



手術件数

外科

目標：手術件数の維持、安全な手術の提供



手術領域	2023	2024	2025
胃切除、胃全摘	27	28	35
大腸切除	65	69	88
直腸切除	25	31	26
肝切除	22	13	13
脾切除	21	14	25
胆嚢摘出	130	126	109
ヘルニア	119	168	163
大血管	24	16	3
甲状腺	15	13	30

- ✓ 2025年の総手術件数は、1282件と横ばいです。
- ✓ 肝胆膵領域は順調に増加しています。
- ✓ 引き続き、手術件数の維持、安全な手術の提供を心がけていきたいと思います。

高度ながん医療の提供



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

外科

✓低侵襲手術割合

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
大腸がん根治手術	92.0%	90.7%	88.2%	88.2%	94.2%
胃がん根治手術	40.0%	43.8%	45.0%	42.9%	50.0%

✓大腸がんは90%維持を、胃がんでは低侵襲手術の割合増加を目指していきます。

当科の特徴、強味

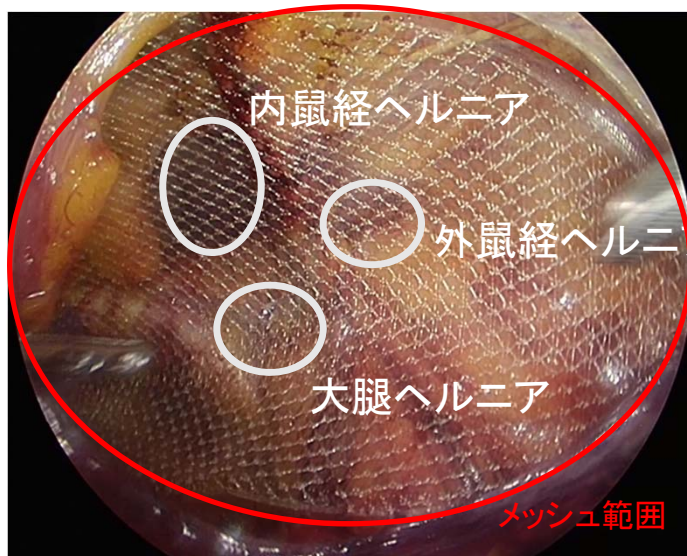
外科

- ✓ 充実した外科指導体制（外科専門医6名、指導医4名）
- ✓ 各領域に専門性の高いスタッフを配置
 - ✓ 消化器（上部、下部、肝胆膵）、血管の4領域をそれぞれの手術経験が豊富な専門医が担当
 - ✓ 消化器外科専門医・指導医、大腸肛門専門医、腹部ステントグラフト指導医など
 - ✓ 乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科との連携によりより高度な治療を実施
- ✓ がん診療連携拠点病院としての高度ながん診療の提供
 - ✓ 低侵襲手術（腹腔鏡下手術）への積極的な取り組み

腹腔鏡下手術割合	2023年	2024年	2025年
大腸がん根治手術	88.2%	88.2%	94.2%
胃がん根治手術	45.0%	42.9%	50.0%

- ✓ 志太・榛原地区唯一の急性動脈疾患（閉塞、破裂）に対する緊急治療体制の確立

腹腔鏡下鼠経ヘルニア修復術を導入しました



- 慢性疼痛の減少
- 術後創部痛の減少

合併症軽減

応用性

- 同じ創で複数のヘルニアに対応可
- 両側や、大腿ヘルニアも同時修復
- 再発ヘルニアにも対応

メリット

美容性

- 3箇所小さい傷
(12mm, 5mm, 5mm)

低侵襲

- 早期の社会復帰
- 手術時間60-90分、出血量も極少量

ロボット支援下手術を導入します



機能温存

- 3D, 拡大視効果で神経, 血管を温存できる

メリット

美容性

低侵襲

- 早期回復
- 出血量少量

10月から新規医師が着任します

外科



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital



石松

石松久人 平成16年卒 浜松医大
日本内視鏡外科学会認定技術認定医



杉原守 平成29年卒 名古屋市立大
日本外科学会専門医

中期目標・令和10年度に目指す姿

外科



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

令和10年度



志太・榛原地区の基幹病院としてより強固な外科医療体制を構築する

- 地域に密着したきめ細かな医療の実践
 - 医師会・診療所との連携強化、患者のニーズに合わせた医療の提供、信頼の獲得
- 地域がん診療連携拠点病院としての高度ながん医療の提供
 - 合併症のない安全な標準治療の提供、低侵襲治療の充実、高度進行がんへの挑戦
- 地域に貢献する若手外科医の継続した育成

短期目標・令和8～9年度の目標

外科



藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

No.	項目	目標
1	患者数、手術件数など	新規入院患者の獲得 新入院患者 100人/月
2	高度ながん医療の提供	術後合併症の軽減 大腸がん:ロボット支援下手術の導入 肝胆膵:高度技能専門医修練施設の申請 腹腔鏡下・ロボット支援下肝切除/膵切除の導入
3	若手外科医の育成	当院から年1人以上の外科専攻医を継続して輩出

目標達成に向けた取組

外科

No.	項目	取組内容
1	医師会・診療所との連携強化	・医師会の先生方への働きかけ(訪問、診療内容紹介資料の送付、各種機関誌への投稿) ・交流の場となる講演会などへの積極的な参加 ・紹介患者への迅速な対応 ・逆紹介率の維持
2	合併症のない安全な手術の実践	・術前・術後カンファレンスの充実(MMカンファレンス) ・抗菌薬適正使用支援チーム、栄養支援チーム、リハビリテーション科(がんリハ)などとの連携強化 ・医療安全文化の涵養
3	低侵襲手術の拡充	・腹腔鏡下膵切除, 肝切除の導入 ・ロボット支援下大腸切除術の導入
4	若手外科医の育成	・外科の魅力の伝承 ・働き方改革 ・新たな教育システムの構築

決 意

志太・榛原地区の基幹病院として
より強固な外科医療体制を構築するよう
努力を重ねていきたいと思いをします。